CG-WLBARGP

詳細マニュアル

PN J613-M7462-03 Rev. C

本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

注 意	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本製品	CG-WLBARGP を指します。
「 」−「 」−「 」	「 」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

●正式名称について

本書で使用しているソフトウェア名の正式名称は以下のとおりです。

・Windows® の正式名称は、Microsoft® Windows® Operating System です。
・Windows® XP は、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および Microsoft® Windows® XP Professional operating system の略です。
・Windows® 2000 は、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system の略です。
・Windows NT4.0 は、Microsoft® Windows® NT workstation operating system の略です。
・Windows® Me は、Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system の略です。
・Windows® 98SE は、Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system の略です。
・Windows® 98 は、Microsoft® Windows® 98 operating system の略です。
・Windows® 95 は、Microsoft® Windows® 95 operating system の略です。
・本書では、Windows® 98 と Windows® 98SE を含めて、Windows 98 と表記しています。

目次

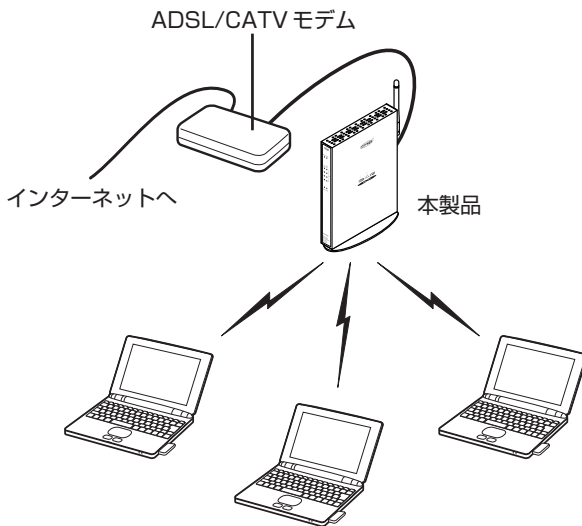
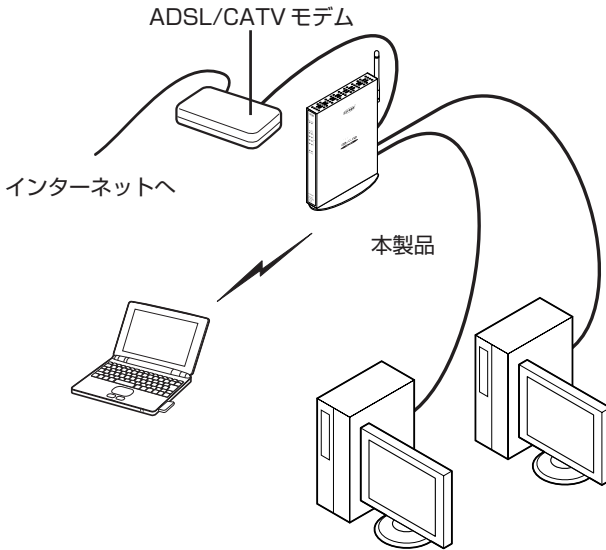
PART1

まず準備が必要

インターネットへの接続方法を決めよう

本製品は、IEEE802.11g 規格と IEEE802.11b 規格に対応したワイヤレス（無線 LAN）通信のアクセスポイント機能を備えています。IEEE802.11g 規格または IEEE802.11b 規格に対応した無線 LAN アダプターと組み合わせることで、本製品とパソコンを無線接続できます。また、ネットワークアダプタを使用して無線LAN環境と有線LAN環境を統合したネットワークを構築することができます。以下の例を参考にして本製品とパソコンの接続方法を決めてください。

- **本製品は、各社の無線LAN機器との間で相互接続性を確保していますが、個別製品の接続可否については、お使いの機器の製造・販売元にお問い合わせください。また、コレガのホームページでは、本製品との接続が確認された動作検証表を随時公開してゆきますので、あわせてご覧ください。**
- **無線 LAN の通信モードには、「インフラストラクチャーモード（Infrastructure mode）」と「アドホックモード（AdHoc mode）」の 2 種類がありますが、下図のように本製品と組み合わせてネットワークを構築する場合には、無線アダプターを「インフラストラクチャーモード」に設定して使用します。**

■無線 LAN 環境のみで構成するネットワークの構築例

■無線 LAN 環境と有線 LAN 環境が混在したネットワークの構築例

- **有線LAN環境を混在させる場合は、10BASE-T/100BASE-TX対応のネットワークアダプタが必要です。**
- **有線接続での本製品とパソコンを接続する方法については、「PART2 パソコンと本製品を接続しよう（有線接続）」（P.8）をご覧ください。**
- **パソコン（ネットワークアダプタ）の設定方法については、「PART4 ネットワークに接続しよう」（P.17）をご覧ください。**

■無線 LAN のセキュリティー対策について

無線 LAN では電波を使って通信を行うため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入されたりする恐れがあります。このようなことがないように、次のようなセキュリティー機能を用意しています。設定を行いたい場合は、PART4 の「セキュリティーの設定をしよう（無線接続の場合）」（P.39）や「PART6 設定ユーティリティーを見てみよう」（P.61）を参照してください。

・通信内容を暗号化する
　WEP（暗号キー）を設定する
　WPA(高度な暗号キー)を設定する
・通信相手を識別、限定する
　ESSID の設定を変更する
　「アクセス制限」を設定する

・ESSID を隠す
　「ステルス AP」を設定する

メモ **本製品の工場出荷時の設定は、右表のとおりです。**

項目	出荷時設定
ESSID	corega
アクセス制限	なし
暗号化（WEP/WPA）	OFF

本製品の特長をとらえよう

本製品には、次のような機能があります。

・FTTH/ADSL/ フレッツ・ADSL/CATV 対応のワイヤレスブロードバンドルーター
・WAN ポートは 100BASE-TX/10BASE-T 対応
・セットアップウィザードで簡単インターネット接続
・簡単 Web 設定で無線 LAN アクセスポイント機能をサポート
・802.11g による相互接続性を確保
・64/128bit の WEP 暗号化による高度なセキュリティーを確保
・WPA 暗号化により、一定時間ごとに暗号を変更するすることで、WEP より更に高度なセキュリティーを確保
・2 つのルーティング方式（スタティック ,RIP）に対応
・PC データベースによるユーザー管理が可能
・詳細なアクセス制限が可能
・E-MAIL 機能にてログ情報を指定のアドレスに送信可能
・DDNS（ダイナミック DNS）対応
・Web 管理による HTTP からのファームウェアアップグレードが可能
・インターネットを経由したリモート設定が可能
・UPnP 対応
・NetMeeting、Windows Messenger (Windows XP SPI 以降)、MSN Messenger (Windows XP SPI 以降)に対応

PART2 パソコンと本製品を接続しよう（有線接続）

接続の準備をしよう

付属の「はじめにお読みください」の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、使用時の注意についてご確認ください。本製品の上面と底面にある通気口は、放熱のため塞がないでください。

■本製品を設置する場所について

●設置に適した場所

・水平で落下の恐れがない場所（机の上など）
・風通しのよい涼しい場所

●設置に適さない場所

・直射日光の当たる場所
・暖房器具の近くなどの高温になる場所
・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（製品仕様に記載されている環境でご使用ください）
・振動の激しい場所
・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
・腐食性ガスの発生する場所
・パソコンやモデム、ディスプレイなど、発熱する機器の上

■本製品の電源を入れるには

●本製品の電源の取り方

本製品の電源は、たこ足配線などを避け、他の機器と別系統で取るようにしてください。必ず付属の専用 AC アダプターを使用し、AC100V の電源コンセントに接続してください。それ以外の AC アダプターやコンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

●本製品の電源の入れ方／切り方

本製品背面の DC ジャックに AC アダプターの DC プラグを接続し、AC プラグを電源コンセントに差し込むと電源が入ります。AC アダプターの AC プラグを電源コンセントから抜くと電源が切れます。

- 本製品には電源スイッチがありません。AC プラグを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。
- AC アダプターの AC プラグを電源コンセントに差し込んだまま DC プラグを抜かないでください。感電事故を引き起こす恐れがあります。

パソコンと本製品を接続しよう

■パソコンとモデムを本製品に接続する

モデムやパソコンなど、本製品とネットワーク接続する機器をLANケーブルで接続してください。

●推奨ケーブルについて

すべてのケーブルが機器間を接続するのに適切な長さであることを確認します。本製品とパソコンを接続するLANケーブルの長さは100m以内にしてください。また、ケーブルは、カテゴリー5のLANケーブル（ストレートタイプ）を使用してください。

1 本製品とネットワーク接続するモデム、パソコンなどの機器の電源をすべて切るか、電源コンセントから抜いてください。

2 本製品背面のLANポートにLANケーブルを接続します。

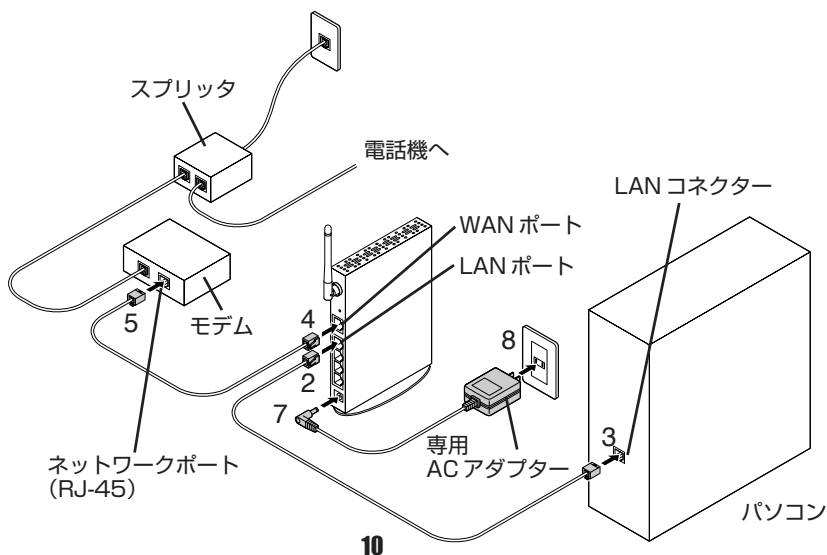
3 LANケーブルのもう一方をパソコンのLANコネクターに接続します。

4 本製品背面のWANポートに添付のLANケーブルを接続します。

5 モデムまたは回線終端装置などのネットワークポート(RJ-45)にLANケーブルのもう一方を接続します。

6 モデムまたは回線終端装置などの電源を入れます。

7 本製品背面のDCジャックに付属の専用ACアダプターを接続します。

8 付属の専用ACアダプターをコンセントに接続し、本製品の電源を入れます。

9 パソコンの電源を入れます。

10 本製品前面のケーブルを接続したポートのLink/Act LEDが点灯していることを確認します。

接続の準備をしよう

付属の「はじめにお読みください」の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、使用時の注意についてご確認ください。本製品の上面と底面にある通気口は、放熱のため塞がないでください。

■本製品を設置する場所について

●設置に適した場所

・水平で落下の恐れがない場所（机の上など）
・風通しのよい涼しい場所

●設置に適さない場所

・直射日光の当たる場所
・暖房器具の近くなどの高温になる場所
・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（製品仕様に記載されている環境でご使用ください）
・振動の激しい場所
・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
・腐食性ガスの発生する場所
・パソコンやモデム、ディスプレイなど、発熱する機器の上

本製品のワイヤレス機能を利用して無線LANを構築する場合は、通信相手となる無線LANアダプターと本製品を、通信可能な距離の範囲内に設置してください。本製品の最大通信距離は、屋外で300m、屋内で100m(54Mbps 通信時:屋外 40m、屋内 30m)ですが、周辺の環境（障害物など）や、通信相手機器の性能、相手側機器との距離などにより、通信速度、距離が大きく変動します。

■本製品の電源を入れるには

●本製品の電源の取り方

本製品の電源は、たこ足配線などを避け、他の機器と別系統で取るようにしてください。必ず付属の専用 AC アダプターを使用し、AC100V の電源コンセントに接続してください。それ以外の AC アダプターやコンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

●本製品の電源の入れ方／切り方

本製品背面の DC ジャックに AC アダプターの DC プラグを接続し、AC プラグを電源コンセントに差し込むと電源が入ります。AC アダプターの AC プラグを電源コンセントから抜くと電源が切れます。

- 本製品には電源スイッチがありません。AC プラグを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。
- AC アダプターの AC プラグを電源コンセントに差し込んだまま DC プラグを抜かないでください。感電事故を引き起こす恐れがあります。

パソコンと本製品を接続しよう

■本製品にモデムを接続する

1 本製品とネットワーク接続するモデム、パソコンなどの機器の電源をすべて切るか、電源コンセントから抜いてください。

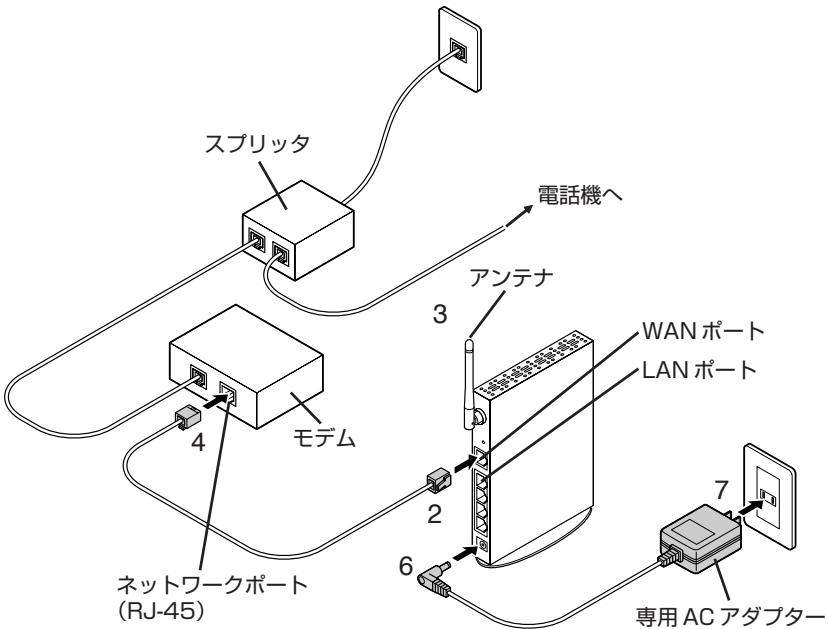
2 本製品背面のWAN ポートに添付のLANケーブルを接続します。

3 本製品のアンテナを立てます。

4 モデムまたは回線終端装置などのネットワークポート(RJ-45)にLANケーブルのもう一方を接続します。

5 モデムまたは回線終端装置などの電源を入れます。

6 本製品背面のDCジャックに専用ACアダプターを接続します。

7 本製品の専用ACアダプターをコンセントに接続し、本製品の電源を入れます。

■パソコンと本製品を接続する

パソコンの電源を入れて、パソコンに取り付けた無線LANアダプターの設定を以下のように変更し、本製品とのワイヤレス接続を開始します。なお、設定方法は、お使いのOSのバージョンや無線LANアダプターによって異なります。

項目名	設定	説明
通信モード	インフラストラクチャー(Infrastructure)モード	無線LANには、通信モードが2つあります。本製品を使ってインターネットに接続するときには、「インフラストラクチャー(Infrastructure)」モードにします。
ESSID	corega	無線LANに接続する機器を識別する名前です。「SSID」と呼ばれることもあります。
チャンネル	Auto	使用する電波の周波数（無線チャンネル）です。
暗号化(WEP/WPA等)	OFF	通信データを暗号化するための暗号キーです。

作業を始める前に、本製品と、無線LANアダプターを取り付けたパソコンが、通信可能な距離の範囲内に設置されていることを確認してください。電波の受信状態が悪いと、正しく設定を行えない場合があります。なお、本製品の最大通信距離は、屋外で300m、屋内で100m(54Mbps通信時:屋外40m、屋内30m)です（使用環境によって異なります）。

●無線LANの設定のしかた（Windows XPの場合）

Windows XPでは、多くの場合、本製品からの電波が受信できるようになった時点で自動的にESSIDが検索され、必要な設定が行われるので、「ワイヤレスネットワークへの接続」画面で「corega」を選択して「接続」をクリックするだけで、本製品と接続できます。ただし、お使いになる無線LANアダプターによっては、設定用ソフトウェアなどによる設定が必要な場合もあります。詳しくは、無線LANアダプターの取扱説明書を参照してください。

●無線 LAN の設定のしかた（Windows 2000/Me/98/95 の場合）

お使いの無線LANアダプターによって、設定方法は異なります。無線LANアダプターの取扱説明書を参照して、ESSID を設定してください。

上の画面は、弊社 IEEE802.11g 規格対応無線 LAN アダプター「WLCB-54GT」での設定画面の例です。設定のしかたは、お使いの製品によって異なります。

●うまく接続できない場合は

ここまでの設定でうまく接続ができない場合は、次の点を確認してください。

・ESSID やチャンネル、WEP などは正しく設定したか？

・本製品と、通信相手となるパソコンは、通信可能な距離に設置されているか？

詳しくは、「PART5　トラブルや疑問があったら」（P.48）を参照してください。また、お使いの無線 LAN アダプターの取扱説明書も参照してください。

パソコンのネットワーク設定をしよう

本製品を利用してインターネット接続ができるように、ご使用になるパソコンのネットワーク設定を行います。
次の内容を確認してください（確認と設定の方法は、OSの種類など、ご使用になるパソコンの環境により異なります）。

・ネットワークアダプタの設定
・TCP/IPの設定

- 複数のパソコンをインターネットに接続させる場合、すべてのパソコンでネットワーク設定を行う必要があります。
- 本製品と無線接続する場合は、作業を始める前に、お使いになるパソコンに無線LANアダプターを取り付けて、ドライバーや設定に必要なソフトウェア（ユーティリティーなど）のインストールを済ませておいてください。取り付け、設定方法については、お使いのパソコンや無線LANアダプターの取扱説明書を参照してください。

■ Windows XPで利用しよう

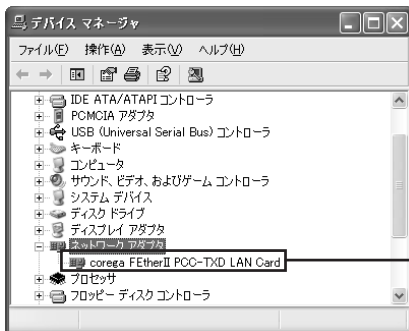
この作業は「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザー名でログオンして行ってください。ユーザー権限については、OSの取扱説明書を参照してください。

●ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1. 「スタート」－「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2. 「ハードウェア」タブを表示して「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。

3. 「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

×や！マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

●TCP/IP プロトコルを確認する

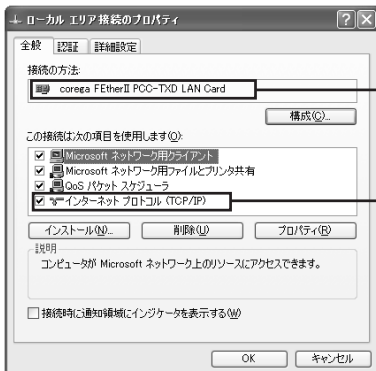
1　「スタート」－「コントロールパネル」をクリックします。

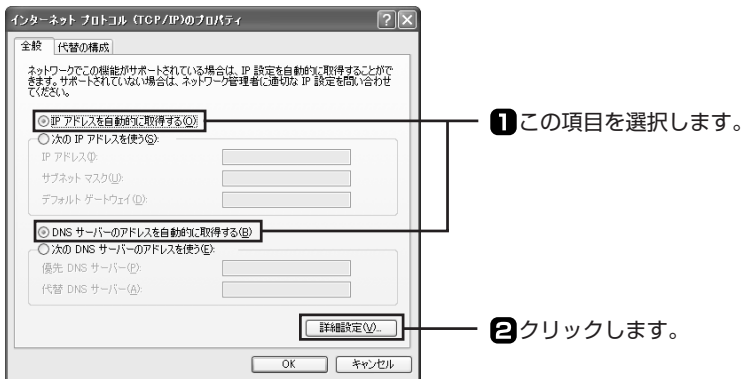
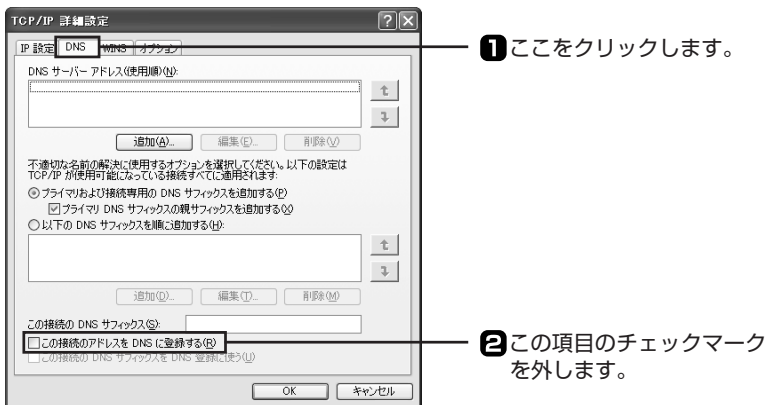
2　「コントロールパネル」にある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。

3　「ネットワーク接続」アイコンをクリックします。

4　**パソコンと本製品を有線接続する場合**
「ローカルエリア接続」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。
パソコンと本製品を無線接続する場合
「ワイヤレスネットワーク接続」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。

5　「全般」タブで「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっているか確認します。

6 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

7 「全般」タブにある「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、「詳細設定」ボタンをクリックします。

8 「TCP/IP詳細設定」画面で「DNS」タブをクリックし、「この接続のアドレスをDNSに登録する」のチェックを外します。

9 「OK」ボタンをクリックします。

10 「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面で、「OK」ボタンをクリックします。

11 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で、「閉じる」ボタンをクリックします。

12 再起動を促すメッセージが表示された場合は、再起動します。

メモ

メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

13 次に「Webブラウザーの設定をしよう」(P.30)に進みます。

■ Windows 2000で利用しよう

この作業は、「Administrator」または同等の権限を持つユーザー名でログインして行ってください。ユーザー権限については、OSの取扱説明書を参照してください。

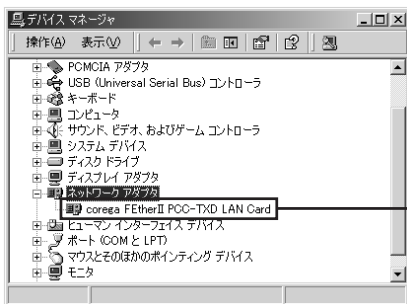
●ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1 デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2 「ハードウェア」タブを選択し、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。

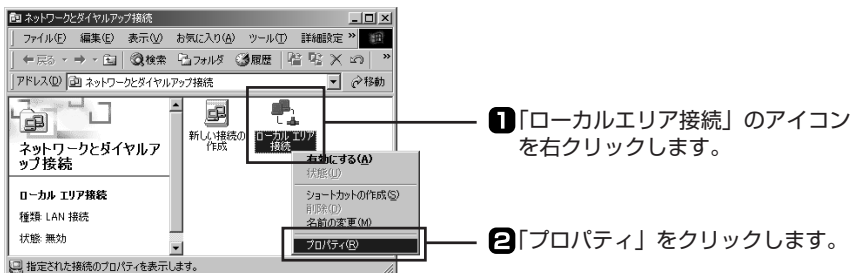
3 一覧の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

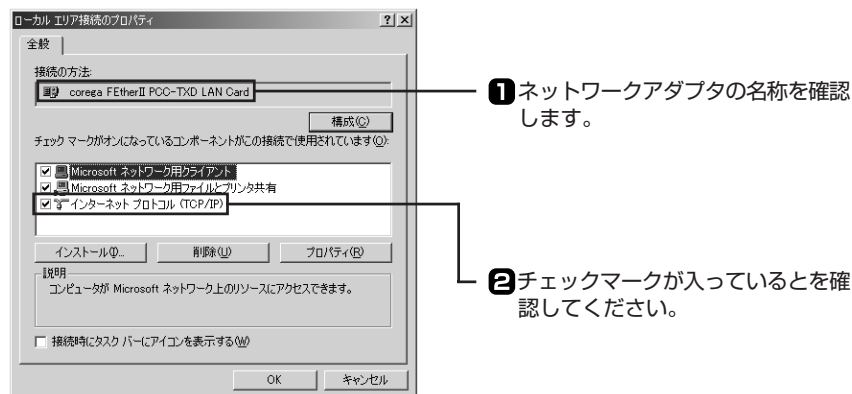
4 ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確かめます。

×や！マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタのマニュアルをお読みになり、正常な状態にしてください。

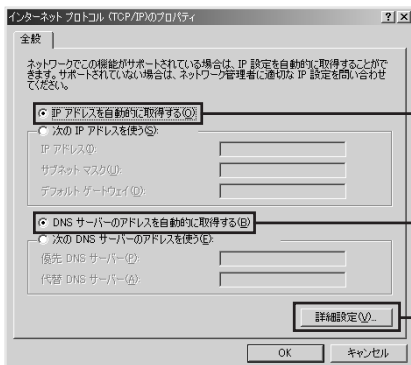
デバイスマネージャに表示されるネットワークアダプタの名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。

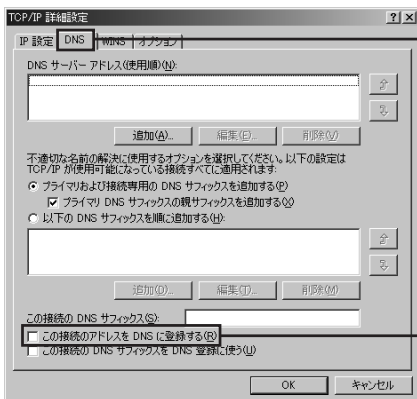
●TCP/IP プロトコルを確認する

1 「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

※「ローカルエリア接続」の名称はご使用のパソコンの環境により異なる場合があります。

3 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっていることを確認します。

- デバイスマネージャに表示されるネットワークアダプタの名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。
- 「インターネットプロトコル（TCP/IP)」が一覧にない場合は、「TCP/IP をインストールする」(P.23）を参照してください。

4 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

5 「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、「詳細設定」ボタンをクリックします。

6 「TCP/IP 詳細設定」画面で「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスをDNS に登録する」のチェックを外します。

7 「OK」ボタンをクリックします。

8 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックします。

9 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

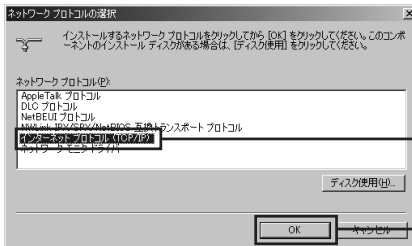
10 次に「Webブラウザーの設定をしよう」(P.30)に進みます。

● TCP/IP をインストールする

TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「インストール」ボタンをクリックします。

2 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面が表示されたら「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。

3 「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されたら「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

4 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっていることを確認します。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」(P.21)の手順を行ってください。

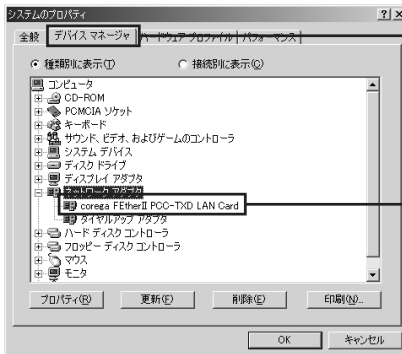
■ Windows Me/98/95で利用しよう

●ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1 デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、表示されたハードウェアデバイスの一覧から「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

3 ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

・×や！マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタのマニュアルをお読みになり、正常な状態にしてください。

・「Microsoft仮想プライベートネットワークアダプタ」「ダイヤルアップアダプタ」などのアダプタ名が表示されていることがありますが、これらは本製品で使用するネットワークアダプタと関係ありません。

● TCP/IPプロトコルを確認する

ここでは例としてWindows Meを使用しています。Windows 98/95をご使用の場合も手順は同様です。

1 「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」をクリックします。

Windows Meの場合、よく使うコントロールパネルのオプションだけが表示されているときは、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると、「ネットワーク」アイコンが表示されます。

2 「コントロールパネル」にある「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

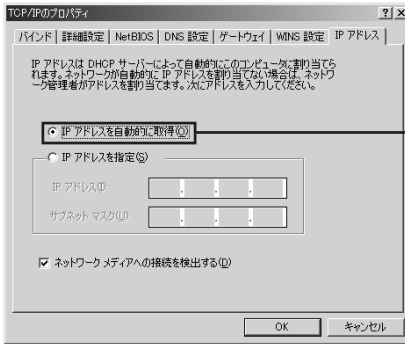
3 「ネットワークの設定」タブ内で「現在のネットワークコンポーネント」の欄に「TCP/IP —> XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていることを確認します。

- 「**TCP/IP —＞XXXXX**（ネットワークアダプタ名）」が表示されていなかった場合は、「**TCP/IP** をインストールする」（**P.27**）を参照してください。
- 「**TCP/IP—＞**」の横に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。
- ダイヤルアップアダプタがない場合は「インターネットプロトコル（**TCP/IP**）」、「**TCP/IP**」などと表示される場合もあります。

4 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP —>XXXXX（ネットワークアダプタ名）」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

メモ

「**TCP/IP —＞XXXXX**（ネットワークアダプタ名）」が複数表示されている場合は、ご使用になるネットワークアダプタの方を選択します。

5 「IPアドレス」タブで「IPアドレスを自動的に取得」を選択します。

6 「OK」ボタンをクリックします。

7 「ネットワーク」画面の、「OK」ボタンをクリックします。

WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合はドライブにWindowsのOS用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

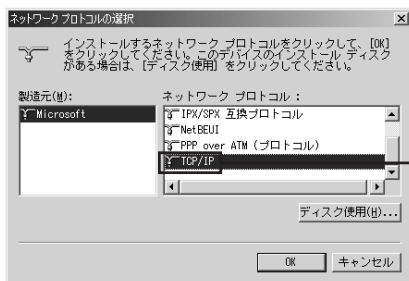
8 次に「Webブラウザーの設定をしよう」(P.30)に進みます。

● TCP/IP をインストールする

TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「ネットワーク」の画面で、「追加」ボタンをクリックします。

2 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面で「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。

3 「ネットワークプロトコルの選択」画面の「製造元」で「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の一覧から「TCP/IP」を選択します。

4 「OK」ボタンをクリックします。

5 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧に「TCP/IP ー>XXXXX(ネットワークアダプタ名)」が追加されていることを確かめます。

- 「TCP/IPー>」の横に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。
- ダイヤルアップアダプタがない場合は「インターネットプロトコル(TCP/IP)」、「TCP/IP」などと表示される場合もあります。

6 「OK」ボタンをクリックして「ネットワーク」画面を閉じると、再起動を促すメッセージが表示されますので、再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

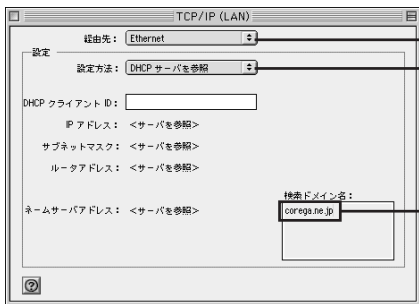
インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」（P.24）の手順を行ってください。

TCP/IPのインストールが正しく行われない場合は、パソコンのメーカーにお問い合わせください。

■Mac OSで利用しよう

●Mac OS 8.x～9.xの場合

1　コントロールパネルにある「TCP/IP」を開きます。

2　「経由先」で「(内蔵)Ethernet」を、「設定方法」で「DHCPサーバを参照」を選択します。

3　画面を閉じます。

4　次に「Webブラウザーの設定をしよう」(P.30)に進みます。

●Mac OS X v1.02の場合

1　「アップルメニュー」－「システム環境設定」を選択します。

2　「システム環境設定」画面で「ネットワーク」をクリックします。

ツールバーに「ネットワーク」がない場合は、「すべてを表示」をクリックします。

3　「ネットワーク」の「表示」で「(内蔵)Ethernet」を、「TCP/IP」タブの「設定」で「DHCPサーバを参照」を選択します。

4 「今すぐ適用」ボタンをクリックします。

5 次に「Webブラウザーの設定をしよう」（本ページ）に進みます。

Web ブラウザーの設定をしよう

本製品を設定できるように、Web ブラウザーの設定を行います。ここでは、Internet Explorer の場合の設定方法を例に説明しています。その他のWeb ブラウザーの場合は、Web ブラウザーのヘルプなどを参照してください。

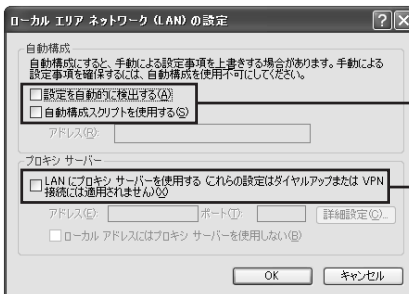
■ Windows の場合

ここでは、Internet Explorer 6.0 の場合の設定方法を説明しています。

1 Internet Explorerを起動し、「ツール」－「インターネットオプション」をクリックします。

2 「インターネットオプション」画面が表示されたら「接続」タブをクリックします。

3 「LANの設定」ボタンをクリックします。

4 「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」画面で「設定を自動的に検出する」「自動構成スクリプトを使用する」「LANにプロキシサーバーを使用する」のチェックマークを外します。

5 「OK」ボタンをクリックします。

6 「インターネット オプション」画面で「OK」ボタンをクリックします。

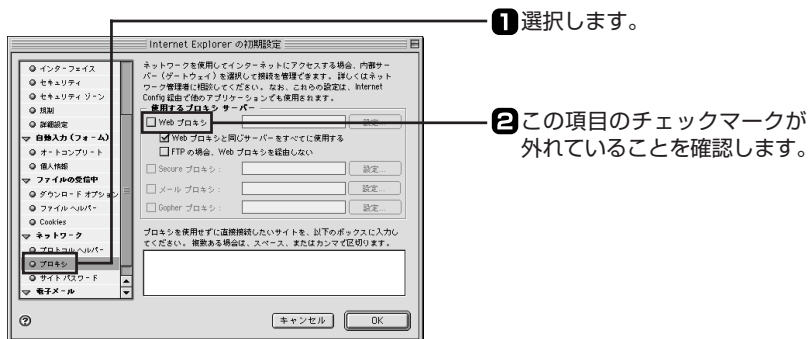
7 次に「本製品の設定をしよう」（P.32）に進みます。

■ Macintosh の場合

ここでは、Internet Explorer 5.0 の場合の設定方法を説明しています。

1　Internet Explorerを起動し、「編集」－「初期設定」をクリックします。

2　「初期設定」画面の左にある設定項目から「ネットワーク」を選択し、「プロキシ」をクリックします。

3　「使用するプロキシサーバー」の設定項目内にある「Webプロキシ」のチェックマークが外れていることを確認します。
チェックマークが付いている場合は、外します。

4　「OK」ボタンをクリックします。

5　次に「本製品の設定をしよう」（次ページ）に進みます。

本製品の設定をしよう

パソコンから本製品を使ってインターネットに接続できるように設定ユーティリティを使って本製品の設定を行います。本製品の設定は Web ブラウザーで行います。本製品に接続されているパソコンのうち、1 台から設定作業を行ってください。Web ブラウザーには Internet Explorer 5.0 以降をご利用ください。これ以外の Web ブラウザーでは、正常にセットアップが行えません。

■簡単に接続しよう

インターネットに接続できるように最小限の設定をします。インターネットへの接続方式はご契約されたプロバイダーによって異なります。プロバイダーから提供されたパソコンの設定情報（ユーザー ID やパスワードなど）を準備してください。

設定用パソコンでウイルス駆除ソフト、ファイアーウォールソフトなどのセキュリティーソフトが稼働していると、本製品の設定に失敗することがあります。一時的にセキュリティーソフトを停止させて本製品の設定を行い、設定作業が終了してから再度稼働させてください。セキュリティーソフトの停止、稼働の方法は、セキュリティーソフトの取扱説明書を参照してください。

●設定ユーティリティを起動する

1 本製品に接続したパソコンで、Internet ExplorerなどのWebブラウザーを起動します。

2 Webブラウザーのアドレス入力欄に「192.168.1.1」と入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

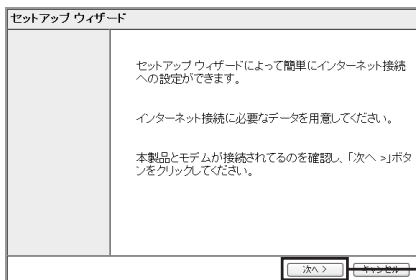
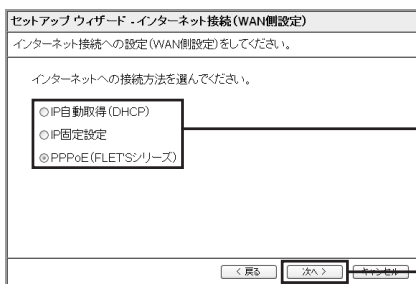
3 ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されたら、ユーザー名の欄に「root」と入力し、「OK」ボタンをクリックします。

- 上の画面は Windows XP のものですが、他の OS でも手順は同じです。
- 工場出荷時の状態では、ユーザー名は「root」に設定されています。パスワードは設定されていません。
- ユーザー名、パスワードは変更できます。詳しくは「本製品のパスワードを変更したい」(P.57)をご覧ください。

設定ユーティリティーが起動します。

●本製品の設定を行う

1　設定ユーティリティーの左側にある「Wizard」ボタンをクリックします。

2　「セットアップウィザード」が表示されたら、「次へ>」ボタンをクリックします。

3　「セットアップウィザード-インターネット接続(WAN側設定)」が表示されたら、ご契約のプロバイダーの接続タイプを選択し「次へ」ボタンをクリックします。

次頁を参考に、該当する接続タイプを選択してください。

●IP自動取得(DHCP)－Yahoo!BB、CATV等(本ページ)

プロバイダーからIPアドレスが特に指定されていない場合に選択します。DHCP機能を利用して、IPアドレスが自動的に割り当てられます。

●IP固定設定－固定IPサービス等(本ページ)

プロバイダーから固定IPアドレスを取得している場合に選択します。

●PPPoE(FLET'Sシリーズ)－フレッツADSL、Bフレッツ等(P.35)

PPPoEと呼ばれる接続手順を使ってインターネットに接続する場合に選択します。プロバイダーよりユーザー名とパスワードが割り当てられます。本製品ではプロバイダーの情報を設定ユーティリティーに登録すると、プロバイダーから配布される「フレッツ接続ツール」などを使用せずに自動的にインターネットに接続できます。

4 接続タイプに応じて「セットアップウィザード」の各項目を設定します。次の接続タイプごとの説明を参考に、設定を行ってください。

●「IP自動取得(DHCP)」の場合

「IP自動取得(DHCP)」を選択した場合は、「セットアップウィザード」で設定する項目はありません。P.35の手順5に進んでください。

●「IP固定設定」の設定項目

この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を設定してください。

項目名	入力例	説明
WAN側IPアドレス	12.34.56.78	プロバイダーから指定されたIPアドレスを入力します。
サブネットマスク	255.255.255.0	プロバイダーから指定されたサブネットマスクを入力します。
ゲートウェイ	12.34.56.1	プロバイダーから指定されたゲートウェイのIPアドレスを入力します。
優先DNSサーバー	12.34.56.98	ローカルにDNSサーバーを設置する場合、またはプロバイダーからDNSアドレスを提供されている場合に入力します。

設定が終わったら「次へ」ボタンをクリックします。

●「PPPoE(FLET'Sシリーズ)」の場合

この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を設定してください。

項目名	入力例	説明
接続ユーザー名	myname@isp.ne.jp	プロバイダーより指定されたユーザー名※を入力します。
接続パスワード	password02	プロバイダーより指定されたパスワード※を入力します。画面上では「＊」または「●」で表示されます。

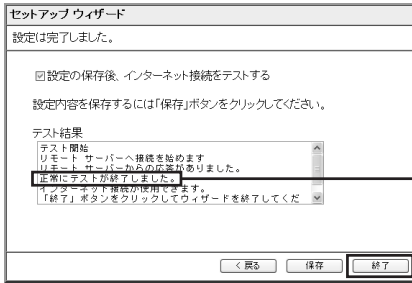
※プロバイダーによって呼び方が異なる場合があります。

設定が終わったら、「次へ」ボタンをクリックします。

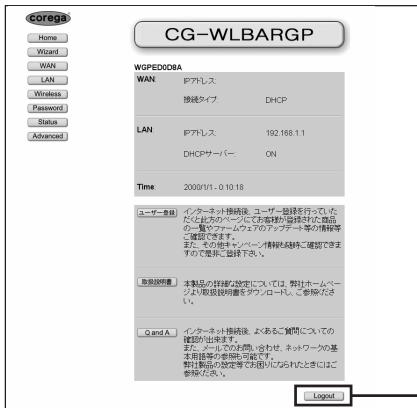
5 次の画面が表示されたら、「設定の保存後、インターネット接続をテストする」にチェックマークを入れて、「保存」ボタンをクリックします。

6 次のダイアログボックスが表示されたら「OK」ボタンをクリックします。

7　しばらくすると、テスト結果が表示されるので確認して「終了」ボタンをクリックします。

パソコン、モデムと本製品の設定、接続に問題がなければ、テスト結果の欄に「正常にテストが終了しました。」と表示されます。

「正常にテストが終了しました。」と表示されなかった場合は、このPARTの「テストに失敗したときは」（P.37）を参照して対処してください。

●設定ユーティリティを終了する

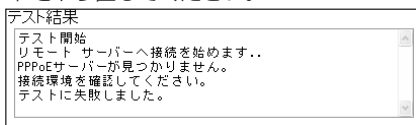
1　P.33の手順1の画面に戻ったら「Logout」ボタンをクリックして設定ユーティリティーを終了します。

これで、本製品の基本的な設定は終わりです。

・その他の設定項目については、「PART6 設定ユーティリティーを見てみよう」（P.61）をご覧ください。本製品のより高度な使用方法については、「PART7 こんなときにはこの設定」（P.113）をご覧ください。
・PPPoEセッションを同時に2つ使用する（マルチPPPoE）場合は、「WAN（WAN側設定）～インターネット（WAN）側の設定をする～」の「マルチPPPoE接続の場合」（P.70）をご覧ください。

●テストに失敗したときは

テスト終了後、次のような画面が表示されたときは、メッセージの内容を確認して、再度、ウィザードをやり直してください。

テスト結果

テスト開始
リモート サーバーへ接続を始めます..
PPPoEサーバーが見つかりません。
接続環境を確認してください。
テストに失敗しました。

この画面が表示されたときは、次のような原因が考えられます。

・ユーザー名かパスワードの入力を間違えている
　プロバイダーからの契約書類などを確認して、正しく入力してください。
・モデムと回線とが正しく接続されていない
　モデムとスプリッタ、スプリッタとモジュラーコンセントなどが正しく接続されているか、確認してください。
・本製品の WAN ポートにケーブルが正しく接続されていない
　本製品の WAN ポートに LAN ケーブルが正しく接続されているか、確認してください。

インターネットに接続してみよう

パソコンと設定ユーティリティーの設定が終わったら、インターネットに接続できるか確認します。

1　本製品に接続したパソコンで、Internet ExplorerなどのWebブラウザーを起動します。

2　Webブラウザーのアドレス入力欄にコレガのホームページアドレス「http://www.corega.co.jp/」を入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

3　ホームページが表示されます。

ご契約のプロバイダーによっては、設定後、インターネットに接続できるようになるまでに、時間がかかる場合があります。詳しくは、ご契約のプロバイダーにお問い合わせください。

もし、インターネットにつながらなかった場合は、本書の「PART5　トラブルや疑問があったら」（P.48）をご覧ください。

２台目以降のパソコンを接続しよう

本製品に接続したいパソコンが他にもある場合は、次の箇所を参照してパソコンの設定と接続を行ってください。

●有線接続の場合

①パソコンと本製品を接続しよう（P.10）
②パソコンのネットワーク設定をしよう（P.17）
　本製品の設定は不要です。「本製品の設定をしよう」（P.32）の作業は行わないでください。

●無線接続の場合

①パソコンと本製品を接続しよう（P.14）
②パソコンのネットワーク設定をしよう（P.17）
　本製品の設定は不要です。「本製品の設定をしよう」（P.32）の作業は行わないでください。

セキュリティーの設定をしよう（無線接続の場合）

無線 LAN ではデータの通信に電波を利用しているため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入されたりする恐れがあります。本製品では、これらの対策として次のようなセキュリティー機能を用意しています。セキュリティーの設定をしたい場合は、ここを読んでください。

●通信内容を暗号化する

・WEP（Wired Equivalent Privacy）

通信内容を暗号化すると、仮に通信データを傍受された場合でも、通信内容の復元を容易に行うことができなくなります。この WEP 機能を有効にして通信データを暗号化することをお勧めします。ただし、通信相手側機器も WEP 機能を持っていないと使えません。

本製品は、「64Bit」と「128Bit」の 2 種類の WEP に対応しています。「128Bit WEP」の方がより安全です。また、定期的に暗号キーを変更することで、より安全性が高まります。

- 「64Bit WEP」　：16 進数で 10 桁の暗号キーを利用可能
- 「128Bit WEP」：16 進数で 26 桁の暗号キーを利用可能

WEP の設定をしたい場合は、この PART の「WEP を設定する」（次ページ）を参照してください。

・通信内容を高度な暗号化する WPA(Wi-Fi Protected Access)

通信内容を設定した暗号キーを使って暗号化します。一定時間ごとに暗号キーが変わるので、通信データを傍受されにくくなり、WEP より高度なセキュリティー設定ができます。
設定方法については、この PART の「WPA を設定する」(P.44)をご覧ください。

- 「128Bit 」を使用する場合は、メモリーの消費量が増加するため、無線ネットワークのパフォーマンスに多少影響があります。
- 本製品に WEP または WPA を設定した場合、本製品に無線接続するすべてのパソコン（ネットワークアダプタ）に同じ暗号キーを使用する必要があります。

●通信相手を識別するための ESSID（Extended Service Set IDentifier）

無線 LAN に接続する機器を識別する名前です。SSID と呼ばれることもあります。同じ ESSID を持つ無線 LAN 機器同士でしか通信できないため、独自の ESSID を設定することにより、外部から不正侵入される危険が減少します。
ESSID の設定をしたい場合は、この PART の「ESSID を変更する」（P.46）を参照してください。

●その他のセキュリティー対策

・LAN アクセス制限（無線）

本製品の「PC データベース」を利用して、無線 LAN へのアクセスを許可するパソコンを指定する機能です。指定されていないパソコンからは無線 LAN に接続できなくなります。設定方法については、「Wireless ～ワイヤレス機能の設定をする～」（P.78）を参照してください。また、PC データベースについては、「PC データベース　～接続しているパソコンを表示する～」（P.105）を参照してください。
なお、本製品の工場出荷時は、アクセス制限は設定されていません（すべての無線クライアントからアクセス可能になっています）。

・本製品のパスワードを変更する

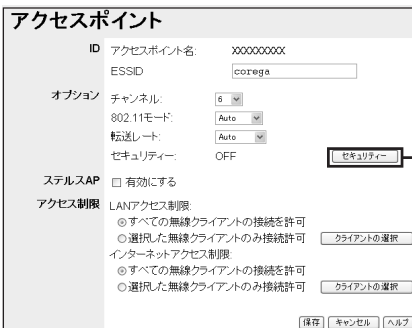
不正に無線LANに侵入した第三者によって本製品の設定を変更されたり、設定されている内容を閲覧されたりしないように、本製品のパスワードを設定しておくことをおすすめします。設定方法については、「PART5　トラブルや疑問があったら」（P.48）を参照してください。

■ WEPを設定する

本製品の設定ユーティリティーを使って、WEPの設定を行います。

1 「設定ユーティリティーを起動する」(P.32)をご覧になり、本製品の設定ユーティリティーを起動します。

2 「Wireless」ボタンをクリックします。

3 「セキュリティー」ボタンをクリックします。

3 「セキュリティー方式」を「WEP」にして、以下の設定を行ってください。

❶ セキュリティー方式は「WEP」を選択します。

❷ 暗号方式は「64bit」「128bit」のどちらかを選択します。

❸ 認証方式は「Auto」「Open System」「Shared Key」から選択します。通常は変更する必要はありません。

❹ WEP キー(暗号キー)を作成したいキーナンバーのラジオボタンをクリックします。

自動設定: キー文字列を入力して、[コード生成]をクリックすると、選択したキーナンバーにWEPキー(暗号キー)が自動的に作成されます。

手動設定: キー欄に直接入力して、WEPキー(暗号キー)を手動で設定します。

詳しい入力方法は、「設定ユーティリティーを見てみよう」「WEPの設定」(P.80)をご覧ください。

・WEP キー(暗号キー)は、1～32文字の半角英数文字(0～9、a～z、!”#$%&’()*+,-./:;<=>?@[¥]^_{¦}˜)で入力してください。(大文字と小文字は区別されます。)

・本製品に設定したWEPキー(暗号キー)は、無線LANに接続するすべてのパソコン(無線LANアダプター)にも設定する必要があります。設定した内容を忘れないように、下の記入欄に設定したキー番号と、生成された(または直接入力した)文字列を正確にメモしておいてください。

パソコン(無線 LAN アダプター)設定用

使用するキー番号	生成された(または直接入力した)WEP キーの文字列

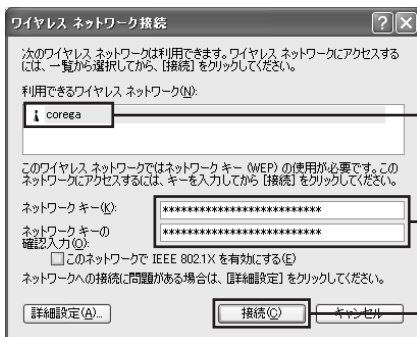
・手動で設定する場合、キー1～4まですべてに入力することができますが、[保存]ボタンをクリックすると、選択しているキーナンバー以外の暗号キーは消去されます。設定するキーナンバーのみに入力してください。

❺ 設定が終了したら、[保存]ボタンをクリックして、Web ブラウザーを終了します。

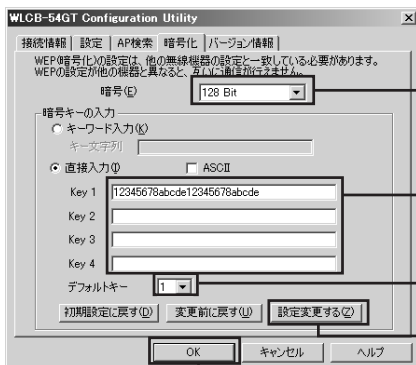
これで、本製品にWEPが設定されました。設定に使用したパソコンを含めて、一時的に、無線接続しているすべてのパソコンからネットワークへの接続ができなくなります。ネットワークに接続するためには、本製品に設定したWEPを無線接続しているすべてのパソコン（無線LANアダプター）に設定します。

●パソコン側でWEPを設定する（Windows XPの場合）

Windows XPでは、多くの場合、「ワイヤレスネットワークへの接続」画面で「ネットワークキー」の入力欄にWEPキーを直接入力して、「接続」ボタンをクリックすることでWEPの設定は完了し、無線LANに接続できます。ただし、ご利用のネットワーク環境やお使いになる無線LANアダプターによっては、設定用ソフトウェアなどによる手動設定が必要な場合もあります。詳しくは、無線LANアダプターおよびパソコンの取扱説明書を参照してください。

パソコン（無線アダプター）のWEPキーを入力するときは、「パソコン（無線LANアダプター）設定用」の記入欄（前ページ）に記入したWEPキー（16進数）を入力してください。

●パソコン側でWEPを設定する（Windows 2000/Me/98/95の場合）

お使いの無線LANアダプターによって、設定方法は異なります。無線LANアダプターの取扱説明書を参照して、本製品に設定したのと同じWEPキーを設定してください。

パソコン（無線アダプター）のWEPキーを入力するときは、「パソコン（無線LANアダプター）設定用」の記入欄（P.41）に記入したWEPキー（16進数）を入力してください。

上の画面は、弊社IEEE802.11g規格対応無線LANアダプター「WLCB-54GT」での設定画面の例です。設定のしかたは、お使いの製品によって異なります。

● WEPを設定した後で、無線LANに接続できなくなったら・・・

本製品に設定したWEPキーを、正確にパソコン（無線LANアダプター）側にも入力したかどうか、再度確認してください。設定用ソフトウェアを使って手動設定している場合は、無線LANアダプターの取扱説明書を参照して、設定内容を確認してください。
どうしても接続できない場合や、本製品に設定したWEPキーを忘れてしまった場合などは、次のいずれかの方法で対処してください。

・有線接続（LANケーブルで接続）しているパソコンがあるとき
有線接続しているパソコンからは、WEPの設定にかかわらず本製品の設定ユーティリティーを起動することができます。このパソコンを使ってWEPの設定をいったん「OFF」に変更して、再度設定し直してください。

・すべてのパソコンを無線接続しているとき
本製品の設定ユーティリティーを開くことができないので、WEPの設定を変更することができません。本製品背面の「Initスイッチ」を使って、本製品のすべての設定を工場出荷時の状態に戻してください。ただし、工場出荷時の状態に戻すと、本製品にこれまで設定した情報（「セットアップウィザード」で設定したインターネット接続の設定など）がすべて消えてしまいますので、ご了承ください。「Initスイッチ」を使って本製品を工場出荷時の状態に戻す方法については、「PART5　トラブルや疑問があったら」（P.48）を参照してください。

■ WPA-PSK を設定する

●通信内容を高度な暗号化する WPA(Wi-Fi Protected Access)

通信内容を設定した暗号キーを使って暗号化します。一定時間ごとに暗号キーが変わるので、通信データを傍受されにくくなり、WEPより高度なセキュリティー設定ができます。WPEには一般家庭向きのWPA-PSKと企業向きのWPA-EAPがあります。本製品はWPA-PSKのみご使用できます。

- **本製品は WPA-PSK のみ対応しています。**
- **ご使用の通信相手機器にも WPA-PSK が対応している必要があります。**

1 「設定ユーティリティーを起動する」(P.32)を参照して、本製品の設定ユーティリティーを起動します。

2 「Wireless」をクリックします。

3 ［セキュリティー］ボタンをクリックします。

4 セキュリティー方式の「WPA-PSK」を選択し、以下の設定を行ってください。

- **共有キーは、半角英数文字(0～9、a～z、！” ＃＄％＆( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _{¦ }~)で入力します(8～63文字まで) 。「’」を入力して ［保存］ ボタンをクリックすると、「’」とそれ以降に入力した文字列が消去されますのでご注意ください。**
- **共有キーは通信相手にも同様の値を入力する必要があるため、正確にメモをとることをおすすめします。**

共有キー	

5　[保存]ボタンをクリックします。

〈WPA 用語〉

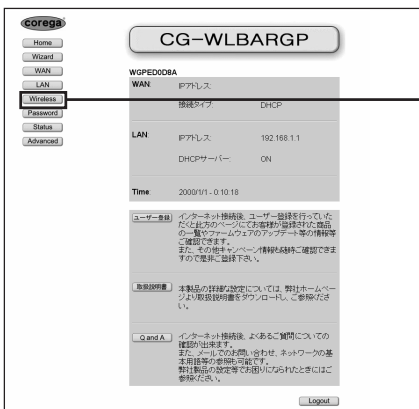
TKIP (Temporal Key Integrity Protocol)	一定期間毎に暗号キーを変更する暗号化プロトコルです。
WPA(Wi-Fi Protected Access)	ワイヤレスネットワークの標準を策定する業界団体「Wi-Fi Alliance」が提唱する暗号化規格です。無線のセキュリティー設定の一つで、暗号化プロトコル(TKIP)を使って通信内容を暗号化し、一定時間毎に暗号を更新します。そのためWEPよりも解読されにくくなります。企業向きのWPA-EAPと、一般家庭向きのWPA-PSKがあります。
WPA-PSK(WPA-Pre-Shared Key)	一般家庭向きのWPA規格です。ユーザーが任意で設定した共有キーに基づいて通信内容を暗号化し、TKIPを使用して通信データの暗号化を一定時間毎に更新します。

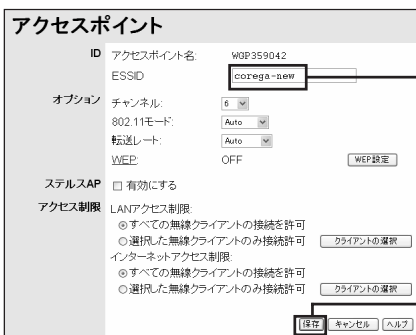
■ESSIDを変更する

本製品の設定ユーティリティーを使って、ESSIDを変更します。新たに設定したESSIDは、無線LANに接続するすべてのパソコン（無線LANアダプター）にも設定する必要があります。設定した内容を忘れないように、作業を始める前に、下の記入欄に新しいESSIDを正確にメモしておくことをおすすめします。なお、本製品の工場出荷時は、「corega」に設定されています。

新しいESSID　：

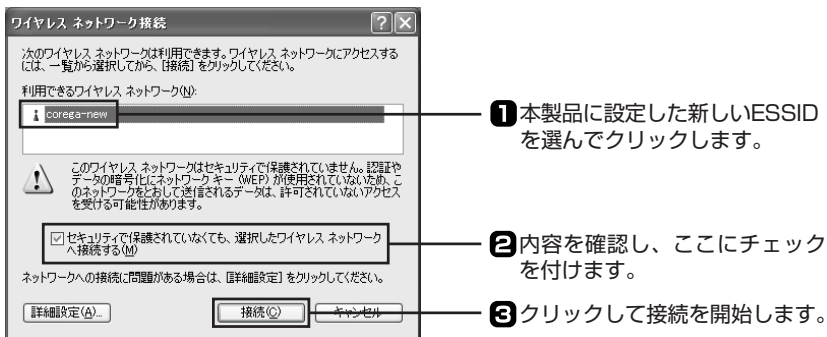
・ESSIDは、8～32文字以内の、半角英数文字と記号(0～9、a～z、!”#$%&’()*+,-./:;<=>?@[¥]^_{¦}~)を使用できます（大文字と小文字は区別されます）。

1 「設定ユーティリティーを起動する」(P.32)を参照して、本製品の設定ユーティリティーを起動します。

2 「Wireless」をクリックします。

3 「ESSID」の入力欄に、新しいESSIDを入力して、「保存」ボタンをクリックします。

4　Webブラウザーを終了します。

これで、本製品のESSIDが変更されました。設定に使用したパソコンを含めて、一時的に、無線接続しているすべてのパソコンからネットワークへの接続ができなくなります。ネットワークに接続するためには、同じESSIDを無線接続しているすべてのパソコン（無線LANアダプター）に設定します。

●パソコン側のESSIDを変更する（Windows XPの場合）

Windows XPでは、多くの場合、本製品のESSIDを変更すると自動的に新しいESSIDが検索されます。ただし、お使いになる無線LANアダプターによっては、設定用ソフトウェアなどによる設定が必要な場合もあります。詳しくは、パソコンおよび無線LANアダプターの取扱説明書を参照してください。

●パソコン側のESSIDを変更する（Windows 2000/Me/98/95の場合）

お使いの無線LANアダプターによって、設定方法は異なります。無線LANアダプターおよびパソコンの取扱説明書を参照して、ESSIDを設定してください。

メモ　上の画面は、弊社IEEE802.11g規格対応無線LANアダプター「WLCB-54GT」での設定画面の例です。設定のしかたは、お使いの製品によって異なります。

トラブルや疑問があったら

本製品を使っていて「困ったな」「うまく動かない…」と思ったとき、疑問があったときは、この章で解決方法を探してください。

解決のステップ

①マニュアルや契約書を確認する。管理者に確認する

⇩ **それでも解決しないときは・・・**

②この章のQ&Aを確認する

＜トラブルは？＞

インターネットに接続できない

①プロバイダーとの契約や回線工事は完了していますか？
②電源は入っていますか？
③モデム⇔インターネット側への回線は正しく接続されていますか？
④ケーブル（モデム⇔本製品⇔パソコン）は正しく接続されていますか？
⑤その他の接続は大丈夫ですか？
⑥パソコンのネットワークアダプターは正しく動作していますか？
⑦パソコンのネットワーク設定は正しく設定しましたか？
⑧無線LANアダプターの設定は正しく設定しましたか？（パソコンと本製品を無線接続している場合）
⑨プロバイダーからの入力事項を正しく設定しましたか？
⑩Webブラウザーの設定は正しいですか？

パソコン同士がつながらない

・ファイルやプリンタが利用できるようにネットワーク設定をしましたか？

本製品の設定ユーティリティーが起動しない
本製品のユーティリティーにログインできない
ファームウェアのアップデートに失敗した

＜疑問は？＞

パソコンのIPアドレスを調べたい
本製品の設定のバックアップを取る。元に戻す
最新のファームウェアを入手してアップデートしたい
本製品のパスワードを変更したい
本製品を再起動したい
本製品の設定を工場出荷時の状態に戻したい

⇩ **それでも解決しないときは・・・**

③コレガのホームページの情報（よくあるお問い合わせ）を活用する
http://www.corega.co.jp/faq

⇩ **それでも解決しないときは・・・**

④それでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせてみる
詳しくは、取扱説明書裏表紙の「製品に関するご質問は…」をご覧ください。

取扱説明書や契約書を再確認する。管理者に確認する

本書以外にもプロバイダー契約時の設定取扱説明書、モデムの取扱説明書、パソコンに添付の取扱説明書をお手元にご用意ください。ネットワークにつながらない原因は複雑なため、本製品の設定が正しくても、他の設定が間違っていたり、外部の装置の問題で正しくつながらないこともあります。下記の「インターネットに接続できない」の項目をすべて確認してもつながらない場合は、プロバイダー、回線業者、パソコンのメーカーなどに問い合わせてみてください。なお、企業でお使いの方はネットワークの設定がオフィスによって決められていることがあります。接続できない場合はネットワーク管理部門や部内のネットワーク管理者などに確認してください。

Q&A

■インターネットに接続できない

以下の項目については、順番に確認し☑のようにチェックを付けてください。

①プロバイダーとの契約や回線工事は完了していますか？

・B フレッツまたはフレッツ・ADSL ＋対応プロバイダーなどの場合

□回線適合調査でサービス可能と認定され、工事は完了したか
□ B フレッツまたはフレッツ・ADSL に対応したプロバイダーの工事は完了したか

・ホールセール業者（イー・アクセス、アッカ・ネットワークスなど）、独自事業者（Yahoo！BB など）の場合

□業者による工事は完了したか

・CATV サービスの場合

□ CATV 加入時にインターネット接続の契約も完了したか
□業者による工事は完了したか

②電源は入っていますか？

各接続機器の電源ランプがついているか、またはACアダプターなどが外れていないかを確認してください。

□ADSL モデム、CATV モデムまたはメディアコンバーターなどに電源が入っているか（ACアダプターが外れていないか）
□本製品に電源が入っているか（専用 AC アダプターが外れていないか）

③モデム⇔インターネット側への回線は正しく接続されていますか？

モデム（ADSL モデム、CATV モデム、メディアコンバーター）からケーブル（電話回線用モジュラーケーブル、同軸ケーブル、光ケーブル）が外れていないかを確認してください。詳しい接続については、モデムやメディアコンバーターに添付の取扱説明書をお読みください。

④ケーブル（モデム⇔本製品⇔パソコン）は正しく接続されていますか？

□本製品と ADSL モデム、CATV モデムまたはメディアコンバーターは LAN ケーブルで正しく接続されているか

本製品とモデムが正常に接続されているとWAN LEDが点灯します。点灯していない場合は、ケーブルを差し直すなどしてみてください。また、モデムにMDI/MDI-Xを切り替えるスイッチがあれば切り替えてみてください。

□本製品とパソコンはLANケーブルで正しく接続されているか（有線接続の場合）
パソコンと本製品が正常に接続されている場合は、パソコンに電源が入っていると本製品の前面にある各LANポートのLink/Act LEDが点灯します。パソコンにネットワークアダプター（LANボード、LANカードなど）がきちんと挿入されているか、LANポートに正しくケーブルが接続されているかも再度確認しましょう。

⑤その他の接続は大丈夫ですか？

・ADSLサービスの場合

□スプリッタの出力ポートの接続は正しいか（電話用とADSLモデム用があります）
ADSLモデム、スプリッタの取扱説明書を参照して確認してください。

・CATVサービスの場合

□分配器の接続は正しいか（TV用とCATVモデム用があります）
CATVモデム、分配器の取扱説明書を参照して確認してください。

⑥パソコンのネットワークアダプターは正しく動作していますか？

□パソコンのネットワークアダプターのドライバーの設定は正しいか
「PART4 ネットワークに接続しよう」「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.17）を参照してパソコンのネットワークアダプターが正常に動作していることを再度確認してください。

⑦パソコンのネットワーク設定は正しく設定しましたか？

□パソコンのTCP/IPが正しく設定されているか
「PART4 ネットワークにしよう」「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.17）を参照してパソコンのTCP/IPが正しく設定されていることを再度確認してください。

□固定IPアドレスなどが正しく設定されていますか？
プロバイダーから複数の固定IPアドレスを割り当てられている、または固定IPアドレスの設定をする場合は、下記の手順でそれぞれのパソコンのネットワーク設定を行ってください。

・Windows XPの場合

1 P.19の手順7の「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面で「次のIPアドレスを使う」を選択し、「IPアドレス」、「サブネット マスク」、「デフォルト ゲートウェイ」の入力欄に割り当てられた値を入力してください。

・Windows 2000の場合

1 P.27の手順5の「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面で「次のIPアドレスを使う」を選択し、「IPアドレス」、「サブネット マスク」、「デフォルト ゲートウェイ」の入力欄に割り当てられた値を入力してください。

・Windows Me/98/95 の場合

1　P.22の手順5の「TCP/IPのプロパティ」画面で「IPアドレスを指定」を選択し、「IPアドレス」、「サブネット マスク」の入力欄に割り当てられた値を入力してください。

2　「ゲートウェイ」タブをクリックし、「新しいゲートウェイ」の入力欄に割り当てられた値を入力して「追加」ボタンをクリックしてください。

・Mac OS 8.x 〜 9.x の場合

1　P.29の「Mac OS 8.x〜9.xの場合」の手順2の「TCP/IP(LAN)」画面で、「経由先」を「内蔵) Ethernet」に、「設定方法」を「手入力」に設定して「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ルータアドレス」の入力欄に割り当てられた値を入力してください。

・Mac OS X v1.02 の場合

1　P.29の「Mac OS X v1.02の場合」の手順3の「ネットワーク」画面で、「表示」を「内蔵Ethernet」に、「TCP/IP」タブの「設定」を「手入力」に設定して「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ルータ」の入力欄に割り当てられた値を入力してください。

⑧無線 LAN アダプターの設定は正しく設定しましたか？（本製品とパソコンを無線接続している場合）

「PART3 パソコンと本製品を接続しよう（無線接続）」「パソコンと本製品を接続する」（P.15）を参照して、無線 LAN アダプターの設定が正しくできているか確認してください。

⑨プロバイダーからの設定事項を正しく入力しましたか？

□契約時の設定事項を本製品およびパソコンに正しく入力したか
「PART4 ネットワークに接続しよう」「本製品の設定をしよう」（P.32）で行ったプロバイダーからの設定事項をすべて設定ユーティリティーに正しく入力しないとインターネットには接続できません。パスワードは入力を間違っても画面上で確かめることができませんので、再度入力をやり直してみてください。大文字／小文字が区別される場合もありますので注意してください。

⑩ Web ブラウザーの設定は正しいですか？

□ Web ブラウザーの設定項目は正しいか

Web ブラウザーの設定についてはプロバイダーから提供された設定情報に関する書類やパソコンに添付の取扱説明書、OS のヘルプなどを参照してください。

Windows98/95をお使いで、初めてインターネットに接続した場合、インターネット接続ウィザードが表示されます。その場合、次の手順で設定してください。

1　「スタート」ボタン―「プログラム」―「通信」―「インターネット接続ウィザード」をクリックします。

2　「インターネット接続を手動で設定するか、ローカルエリアネットワーク(LAN)を使って接続します」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックします。

3 「ローカルエリアネットワーク(LAN)を使って接続します」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックします。

4 「プロキシーサーバーの自動検出」のチェックボックスをクリックしてチェックを外します。

5 「インターネットメールアカウントの設定」画面で「いいえ」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックします。

6 「完了」ボタンをクリックします。

パソコンをダイヤルアップ環境で利用されていた方は、お使いのOSによってはWebブラウザーの設定を変更する必要があります。プロバイダー契約時の設定マニュアル、パソコンに添付のマニュアルやOSのヘルプなどを参照してください。

■パソコン同士がつながらない

●ファイルやプリンタが利用できるようにネットワーク設定をしましたか？

□パソコンのネットワーク共有サービスの設定を行う

本製品のLANポートに接続されたパソコン同士がデータのやり取りをするには、共有ネットワークの設定が必要です。複数台のパソコンでデータのやり取りをする場合、Windows ではMicrosoftネットワーク共有サービスを使ったワークグループ接続（ピアツーピア接続）が一般的です。設定方法については、各OSのヘルプまたは市販の解説書を参照してください。

■本製品の設定ユーティリティーが起動しない

●パソコンのネットワーク設定は正しくできていますか？

□パソコンのTCP/IPが正しく設定されているか

「PART4 ネットワークに接続しよう」「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.17）を参照して、パソコンのTCP/IPが正しく設定されているか再度確認してください。

●無線LANアダプターの設定は正しくできていますか？（本製品とパソコンを無線接続している場合）

「PART3 パソコンと本製品を接続しよう（無線接続）」「パソコンと本製品を接続する」（P.15）を参照して、無線LANアダプターの設定が正しくできているか確認してください。

●プロキシサーバーを使う設定になっていませんか？

□Webブラウザーのプロキシサーバーの設定は正しいか

「PART4 ネットワークに接続しよう」「Webブラウザーの設定をしよう」（P.30）を参照して、Webブラウザーでプロキシサーバーを使用しない設定にしてください。

■本製品の設定ユーティリティーにログインできない

●別のパソコンがログインしていませんか？

別のパソコンがログインしていないか確認してください。別のパソコンがログアウトしたら、もう一度ログインしなおしてください。

●パスワードを忘れた

本製品を工場出荷時の状態に戻してください。パスワードがクリアされます。本製品を工場出荷時の状態に戻す方法は、この章の「本製品を工場出荷時の状態に戻したい」（P.59）を参照してください。パスワードを設定したい場合は、この章の「本製品のパスワードを変更したい」（P.57）を参照して、再設定してください。

本製品を工場出荷時（初期値）の状態に戻すと、パスワードだけでなく、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいます。再度設定しなおしてください。

■ファームウェアのアップデートに失敗した

本製品を工場出荷時の状態に戻してから、再度、ファームウェアのアップデートを行ってください。
本製品を工場出荷時の状態に戻す方法は、この章の「本製品を工場出荷時の状態に戻したい」（P.59）を参照してください。

本製品を工場出荷時（初期値）の状態に戻すと、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいます。再設定してください。

■パソコンのIPアドレスを調べたい、更新したい

本製品よりパソコンに割り当てられたIPアドレスを調べる場合は、次の方法で行ってください。Windows以外のOSについては、OSのヘルプやマニュアルを参照してください。

< Windows XP/2000の場合>

1 「スタート」ボタン－「すべてのプログラム」（Windows 2000の場合は「プログラム」）－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」をクリックします。

2 キーボードから「ipconfig」と入力して、「Enter」キーを押します。

パソコンのIPアドレスが表示されます。

上の画面は例です。「C:¥Documents and Settings¥corega」の部分は、パソコンの使用環境によって表示が異なります。

3　IPアドレスを確認します。

IPアドレスが正しく表示されない、もしくは更新したい場合は、

①「ipconfig␣/release」と入力して、「Enter」キーを押します。
②「ipconfig␣/renew」と入力して、「Enter」キーを押します。

半角スペースを入力します。

＜ Windows Me/98/95 の場合＞

1　「スタート」ボタンー「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

2　「名前」の欄に「winipcfg」と入力して、「OK」ボタンをクリックします。

3　パソコンで使用しているネットワークアダプターを選択します。

パソコンのIPアドレスが表示されます。

IPアドレスが正しく表示されない、もしくは更新したい場合は、

①「解放」ボタンをクリックします。
②「すべて書き換え」ボタンをクリックします。

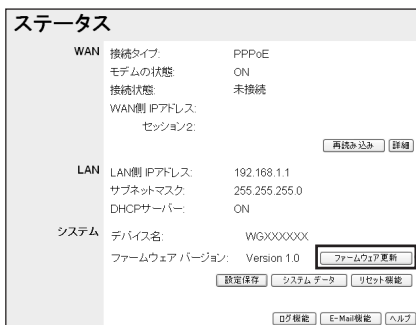
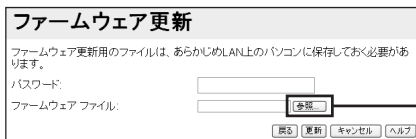
■最新のファームウェアを入手してアップデートしたい

本製品の機能強化のため、予告なくファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアはコレガのホームページ(http://www.corega.co.jp/)から入手してください。ファームウェアをアップデートする前に、本製品の設定内容をメモしておいてください。

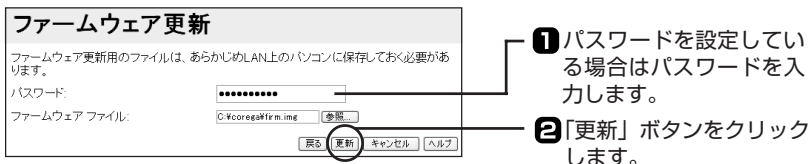
- ファームウェアをアップデートする前に、本製品の設定内容をメモしておいてください。
- ファームウェアをアップデート中は、他の操作を行ったり、本製品の電源を切ったりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗したり、本製品の故障の原因となる場合があります。
- この作業は必ず有線での接続で行ってください。無線では速度が一定ではないため、失敗するおそれがあります。

ここでは例として「C:¥corega」に「firm.img」を保存した場合で説明します。

1 設定ユーティリティを起動し、「Status」ボタンをクリックします。

2 「ファームウェア更新」ボタンをクリックします。

3 「参照」ボタンをクリックします。

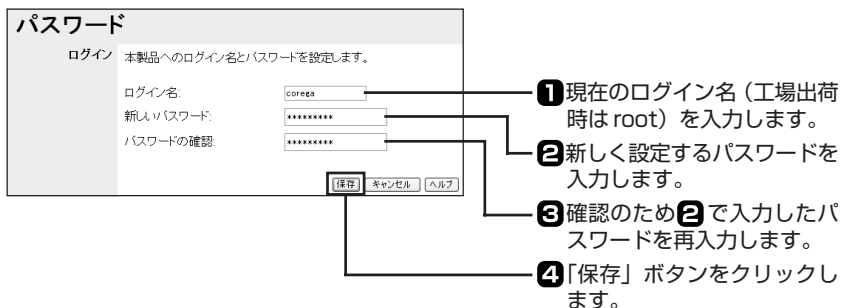
4 「C:¥corega」内の「firm.img」を選択し、「開く」をクリックします。

5　パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してから「更新」ボタンをクリックします。

6　次のダイアログボックスが表示されたら「OK」ボタンをクリックします。

ファームウェアの更新処理が開始されます。

7　次のダイアログボックスが表示されたら本体前面のStatus LEDが消灯していることを確認し「OK」ボタンをクリックします。

8　「ウィンドウは、表示中のWebページにより閉じられようとしています。このウィンドウを閉じますか？」と表示されたら「はい」をクリックします。

9　P.59の手順に従って本製品を工場出荷時の状態に戻してください。

以上で、ファームウェアの更新は終了です。

■本製品のパスワードを変更したい

本製品のパスワードは、次の手順で変更できます。

1 設定ユーティリティーを起動し、「Password」ボタンをクリックします。

・工場出荷時の状態では、パスワードは設定されていません。
・入力したパスワードは、画面上では「●」または「＊」で表示されます。入力ミスのないように注意してください。また、「”」および「"」以降に入力した文字は、保存されません。

2 ネットワークパスワード入力画面が表示されるので、ユーザー名と新しいパスワードを入力して「OK」ボタンをクリックします。

ログイン名およびパスワードで空白を設定すると、認証を行わずに設定ユーティリティーにアクセスすることができます。

■本製品を再起動したい

本製品のシステムを再起動します。設定を変更した場合には、再起動して設定内容を反映させてください。「ファームウェアのアップデート」「工場出荷時の状態に戻したい」とは異なりますのでご注意ください。
再起動には、次の２つの方法があります。

● Init スイッチを使って再起動する

1　本製品の電源が入っている状態で、ゼムクリップなど堅くて先の細いものを使用し、本製品背面にあるInitスイッチを約3秒程押します。

2　これで再起動は完了です。

●設定ユーティリティーを使って再起動する

1　設定ユーティリティーを起動し、「Status」ボタンをクリックします。

2　「リセット機能」ボタンをクリックします。

3　「システムリブート」の「実行」ボタンをクリックします。

「システムリブートをおこないます。」と表示されるので、「OK」ボタンをクリックします。Power LED が消え、再び点灯します。

■本製品を工場出荷時の状態に戻したい

本製品を工場出荷時（初期値）の状態に戻すと今まで設定していた情報がすべて初期値になります。重要な設定をしている場合は、設定内容を書き残すなど、後で再設定できるようにしておいてください。

工場出荷時の状態に戻すには、次の２つの方法があります(2 つの方法に違いはありません)。

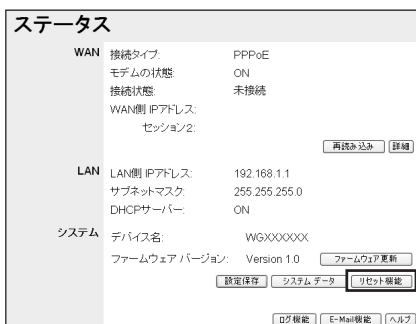
● Init スイッチを使って初期化する

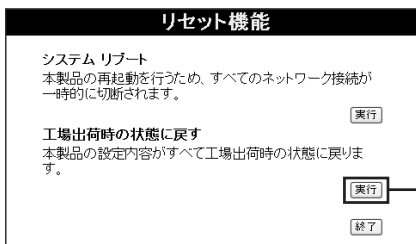
1 本製品の電源を切ります。

2 本製品背面のInitスイッチを押しながら、電源を入れます。
Initスイッチはゼムクリップなど堅くて先の細いもので押してください。

3 約20秒以上Initスイッチを押してから離します。

●設定ユーティリテ ィーを使って初期化する

1 設定ユーティリティーを起動し､｢Status｣ボタンをクリックします。

2 ｢リセット機能｣ボタンをクリックします。

3 ｢工場出荷時の状態にもどす｣の｢実行｣ボタンをクリックします。

｢工場出荷時の状態に戻します｡強制的に中断しないでください｡｣と表示されたら｢OK｣ボタンをクリックします｡Status LEDが点灯し､しばらくして消灯すれば､工場出荷時の状態に戻ります。

コレガのホームページの情報を活用する

コレガのホームページでは、お客様からのよくあるお問い合わせ情報やネットワークの一般知識を分かりやすく解説しているページを公開中です。困っていることを解決するヒントになります。

http://www.corega.co.jp/

設定ユーティリティーを見てみよう

本製品を使っていて「高度な機能を使いこなしたい」「設定ユーティリティーの詳しい情報が知りたい」と思ったときは、このPARTで項目を探してください。

設定ユーティリティーの使い方

■設定ユーティリティーの起動/終了のしかた

設定ユーティリティーの起動方法/終了のしかたについては、本書のPART4の「本製品の設定をしよう」に記載しています。

- ・設定ユーティリティーの起動方法については、「設定ユーティリティーを起動する」(P.32)をご覧ください。
- ・設定ユーティリティーの終了方法については、「設定ユーティリティーを終了する」(P.36)をご覧ください。

■設定ユーティリティーの全体構成について

Home… WAN側、LAN側の現在の設定を表示する、設定ユーティリティへを終了する(P.62)

Wizard… まずインターネットに接続する(P.62)

WAN… インターネット(WAN)側の設定をする(P.62)

LAN… パソコン(LAN)側の設定をする(P.77)

Wireless… ワイヤレス機能の設定をする(P.78)

Password… 本製品の設定変更を制限する(P.83)

Status… 現在の接続状態を表示する(P.84)

Advanced

- アドバンスドインターネット…ネットワークアプリケーションを利用できるようにする(P.94)
- スペシャルアプリケーション…アプリケーションを登録して利用する(P.95)
- バーチャルサーバー…インターネット上にサーバーを公開する(P.96)
- ダイナミックDNS…バーチャルサーバーにURLでアクセスできるようにする(P.97)
- アクセス制限…パソコンのアクセスを制限する(P.99)
- セキュリティー…外部からの不正なアクセスを防ぐ(P.103)
- PCデータベース…接続しているパソコンを表示する(P.105)
- ルーティング…ルーティングテーブルを設定する(P.108)
- リモート設定…インターネット上から本製品の設定をする(P.110)
- その他各種設定(P.111)

設定画面の各機能

・以降の説明では、表の入力例を使用した場合の画面例を掲載しています。実際にはご使用の環境に合った値を入力してください。
・各設定画面には、「ヘルプ」ボタンがあります。設定内容について詳しくは、ヘルプを参照してください。

■ Home ～WAN側、LAN側の現在の設定を表示する、設定ユーティリティーを終了する～

設定ユーティリティー起動時の画面です。WAN側、LAN側の現在の設定が表示されます。また、設定ユーティリティーを終了するときは、必ず「Home」の画面に戻って画面右下の「Logout」ボタンをクリックしてください。

■ Wizard　～まずインターネットに接続する～

簡単なインターネット接続の設定を行います。設定の詳細については、「PART4 ネットワークに接続しよう」「本製品の設定をしよう」（P.32）を参照してください。

■ WAN（WAN側設定）　～インターネット（WAN）側の設定をする～

WAN側のIP アドレス、デフォルトゲートウェイアドレス、DNSサーバーアドレスの設定、PPPoEの設定などインターネットに接続するための基本となる設定を行います。ご契約されたプロバイダーの接続タイプに合わせて設定してください。「Wizard」で設定済みの場合は、その設定内容が表示されます。

通常は「Wizard」から設定を行ってください。

1　メニューから「WAN」ボタンをクリックします。

2　ご契約のプロバイダーの接続タイプを選択し､｢次へ｣ボタンをクリックします。

・DHCP を利用する場合（次ページ）

プロバイダーからIPアドレスが特に指定されていない場合に選択します。DHCP機能を利用して、IP アドレスが自動的に割り当てられます。
リストから「DHCP/ 固定 IP」を選択してください。

・固定 IP アドレスで接続する場合（P.65）

プロバイダーから固定 IP アドレスを取得している場合に選択します。
リストから「DHCP/ 固定 IP」を選択してください。
各プロバイダーが提供する固定IPアドレスサービスで､Bフレッツやフレッツ･ADSLによる接続を行う場合は、「PPPoE/Unnumbered IP」を選択してください。

・PPPoE 接続の場合（P.66）

PPPoEと呼ばれる接続手順を使ってインターネットに接続する場合に選択します｡プロバイダーよりユーザー名とパスワードが割り当てられます。
リストから「PPPoE/Unnumbered IP」を選択してください。

・Unnumbered IP 機能による PPPoE 接続の場合（P.68）

プロバイダーから複数の WAN 側の IP アドレス（グローバル IP アドレス）を取得し、PPPoE 接続する場合に選択します。
リストから「PPPoE/Unnumbered IP」を選択してください。

Unnumbered IP 機能とは、プロバイダーから取得した複数の WAN 側の IP アドレス（グローバル IP アドレス）をパソコンに割り当てて使用することができる機能です。インターネットに公開することにより、Web サーバーやメールサーバー、DNS サーバーなどを運用することができます。

・マルチ PPPoE 接続の場合（P.70）

PPPoE セッションを同時に二つ使用する場合に選択します。
リストから「マルチ PPPoE」を選択してください。

本製品は、1 つのブロードバンド回線で、通常インターネットに接続する PPPoE 接続（セッション 1）とは別に、特定の接続先に他の経路（セッション 2）で接続できます｡これによりインターネットサービスプロバイダーと接続したまま､同時に PPPoE を利用したサービスを利用することができます。

･ローカルルーターとして接続する場合（P.77）

本製品をローカルルーターとして使用する場合に選択します。
リストから「LOCAL OFFICE」を選択してください。

＜DHCP を利用する場合＞

項目名	説明
①ホスト名	プロバイダーからホスト名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に、入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 1 ～ 19 文字までです。
②ドメイン名	プロバイダーからドメイン名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に、入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 1 ～ 50 文字までです。
③ IP アドレス	**IP アドレス自動取得(DHCP)** DHCP 機能を利用して IP アドレスを自動的に取得する場合、プロバイダーからIPアドレスを自動的に割り当てられる場合（CATV等）は、これを選択します。 ※「固定 IP アドレス」は、DHCP を利用するときは選択しません。 ※工場出荷時は、「IP アドレス自動取得(DHCP)」が選択されています。
④ DNS	**自動取得** プロバイダーより DNS サーバーを自動設定するような指示があった場合、または特に指示がなかった場合に選択します。 ※工場出荷時は、「有効」になっています。 **優先 DNS サーバー** プロバイダーから DNS サーバーの IP アドレスを指示された場合に選択し、指定された IP アドレスを入力します。(入力例:12. 34. 56. 98) ※工場出荷時は、「自動取得」が選択されています。

※半角英数字、記号…0～9、a～z、！” ＃ ＄ ％ ＆ ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ？ @ [￥] ^ _ { ¦ } ˜

＜固定 IP アドレスで接続する場合＞

項目名	説明
①ホスト名	プロバイダーからホスト名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に、入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 1 ～ 19 文字までです。
②ドメイン名	プロバイダーからドメイン名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に、入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 1 ～ 50 文字までです。
③ IP アドレス	**固定 IP アドレス** プロバイダーから固定 IP アドレスを割り当てられている場合（固定 IP サービス等）に選択します。 ・IP アドレス　プロバイダーから指定されたIP アドレスを入力します。(入力例:12. 34. 56. 78) ・サブネットマスク　プロバイダーから指定されたサブネットマスクのアドレスを入力します。(入力例:255. 255. 255. 0) ・ゲートウェイ　プロバイダーから指定されたゲートウェイのアドレスを入力します。(入力例:12. 34. 56. 1) ※「IPアドレス自動取得(DHCP)」は、固定IPアドレスを利用するときは選択しません。
⑤ DNS	**優先 DNS サーバー** プロバイダーから DNS サーバーの IP アドレスを指示された場合に選択し、指定された IP アドレスを入力します。(入力例:12. 34. 56. 98) ※「自動取得」は選択できません。

※半角英数字、記号…0～9、a～z、！” ＃＄％＆’（) * + , - . / : ; < = > ？@ [￥] ^ _ { ¦ } ˜

＜PPPoE 接続の場合＞

項目名	入力例	説明
① PPPoE 接続名	corega	「PPPoE 設定」を任意の名前で登録できます。入力可能な文字は半角英数字、記号で 1 ～ 19 文字(全角は 9 文字)までです。
②ユーザー名	myname@isp.ne.jp	プロバイダーより指定されたユーザー名（プロバイダーによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。「フレッツ・ADSL」や「B フレッツ」の場合、“@”から後ろもすべて入力します。 ※ 入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 60 文字までです。
③パスワード	Password02	プロバイダーより指定されたパスワード（プロバイダーによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。パスワードは画面上では「＊」や「●」で表示されます。 ※ 入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 1 ～ 25 文字までです。
④接続方法	トリガー接続	インターネットへの接続方法を選択します。 ・常時接続：常にインターネットに接続します。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ・トリガー接続：パソコンからインターネットへの接続要求があった場合に、自動的に PPPoE 接続を開始します。 ・手動接続：「Status」から「詳細」ボタンをクリックして表示される「詳細情報-PPPoE」画面で「接続」ボタンをクリックすることで、PPPoE 接続を開始します。

※半角英数字、記号…0～9、a～z、！” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ~

項目名	入力例	説明
⑤無通信タイマー	15	PPPoE 接続で無通信状態になってから自動的にPPPoE 接続を切断するまでの時間を設定します。0～99 分のあいだで指定してください。 ※0分を設定すると自動では切断しません。「接続方法」で「常時接続」を選択した場合は、「0」分になります。
⑥通常接続	–	通常のPPPoE 接続を行う場合に選択します。
⑦自動取得	–	プロバイダーよりDNS サーバーを自動設定するような指示があった場合、または特に指示がなかった場合に選択します。 ※工場出荷時に選択されています。
⑧優先DNS サーバー	12.34.56.98	プロバイダーからDNS サーバーのIP アドレスを指示された場合に選択し、指定されたIP アドレスを入力します。 ※ 工場出荷時は⑦の「自動取得」が選択されています。

＜Unnumbered IP 機能による PPPoE 接続の場合＞

設定が終了したら「保存」ボタンをクリックします。

項目名	入力例	説明
① PPPoE 接続名	corega	「PPPoE 設定」を任意の名前で登録できます。入力可能な文字は半角英数字、記号で 1～19 文字(全角は 9 文字)までです。
②ユーザー名	myname@isp.ne.jp	プロバイダーより指定されたユーザー名（プロバイダーによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。「フレッツ・ADSL」や「B フレッツ」の場合、“@”から後ろもすべて入力します。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 60 文字までです。
③パスワード	Password02	プロバイダーより指定されたパスワード（プロバイダーによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。パスワードは画面上では「＊」や「●」で表示されます。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 1～25 文字までです。
④接続方法	トリガー接続	インターネットへの接続方法を選択します。 ・常時接続：常にインターネットに接続します。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ・トリガー接続：パソコンからインターネットへの接続要求があった場合に、自動的に PPPoE 接続を開始します。 ・手動接続：「Status」から「詳細」ボタンをクリックして表示される「詳細情報-PPPoE」画面で「接続」ボタンをクリックすることで、PPPoE接続を開始します。

※半角英数字、記号…0～9、a～z、！”＃＄％＆’（）＊＋，－．／：；＜＝＞？＠［￥］＾＿｛¦｝￣

項目名	入力例	説明
⑤無通信タイマー	15	PPPoE 接続で無通信状態になってから自動的にPPPoE 接続を切断するまでの時間を設定します。0～99 分のあいだで指定してください。 ※0 分を設定すると自動では切断しません。「接続方法」で「常時接続」を選択した場合は、「0」分になります。
⑥ Unnumbered IP	－	プロバイダーから複数のWAN側のIPアドレスを取得し、UnnumberedでPPPoE接続する場合に選択します。 ※工場出荷時は、「通常接続」が選択されています。
⑦ IP アドレス	202.87.250.10	プロバイダーから指定されたIP アドレスを入力します。
⑧サブネットマスク	255.255.255.248	プロバイダーから指定されたサブネットマスクのアドレスを入力します。
⑨タイプ	Unnumbered IP	メニューから、使用するタイプを選択します。 ・Unnumbered IP：WAN 側の IP アドレスを複数使用する場合。 ・Unnumbered IP + Private：WAN 側の IP アドレスと、LAN側のIPアドレスを同時に使用する場合。
⑩自動取得	－	プロバイダーより DNS サーバーを自動設定するような指示があった場合、または特に指示がなかった場合に選択します。 ※工場出荷時に選択されています。
⑪優先 DNS サーバー	12.34.56.98	プロバイダーからDNS サーバーのIPアドレスを指示された場合に選択し、指定されたIPアドレスを入力します。 ※工場出荷時は⑩の「自動取得」が選択されています。

Unnumbered IP による接続を行うと、リモート設定を利用しなくても、WAN 側より本製品を設定することができます。セキュリティー上、パスワードの設定（P.83）およびリモート設定（P.110）で「リモート設定を使用する」にチェックを付けて、ポート番号の変更を行ってください。

< マルチ PPPoE 接続の場合 >

- PPPoE サービスを提供している回線が、B フレッツ・ベーシックタイプなどのように、複数の接続に対応している必要があります。
- 利用のための契約や登録が必要であるサービスがあります。事前にそれらを完了しておいてください。
- セッション 2 の接続での登録済アプリケーション、スペシャルアプリケーションのご利用はできません。その他マルチ PPPoE 機能利用時の制限事項については、付録の「マルチ PPPoE 機能での制限事項」（P.124）を参照してください。

項目名	説明
①アカウント	PPPoE アカウントを登録します。本製品は 5 つの PPPoE アカウントを登録することができます。
②セッション	セッション接続を指定します。セッションごとに使用するアカウントを登録することができます。 セッション1およびセッション2は同時に複数のアカウントを選択することはできません。

設定内容を変更するには「次へ」ボタンをクリックします。

設定が終了したら「保存」ボタンをクリックします。
また、接続先設定を保存した後にも必ずクリックして、設定を有効にしてください。

項目名	入力例	説明
① PPPoE 設定	アカウント2	ＰＰＰｏＥ アカウントを変更することができます。「PPPoE 設定」アカウントリストから設定内容を変更したいアカウントを選択し、②～⑰の設定を行います。 ※登録した PPPoE アカウントの設定には、任意の名前を付けることができます。「PPPoE接続名」の入力欄で変更することができます。
②接続指定	セッション2	「PPPoE 設定」で選択したアカウントで使用するセッションを選択します。「接続先設定」画面で指定した接続先への通信を検出した場合は、セッション 2 を使用して接続します。それ以外の通信は、セッション 1 を使用して接続します。 ・指定なし：選択したアカウントで PPPoE 接続しない場合に選択します。 ・セッション 1：通常インターネットを利用するためのプロバイダーの設定をするときに選択します。 ・セッション 2：インターネット接続をしたまま、PPPoE を利用したサービスを利用する場合に選択します。「IP アドレス追加」ボタン、「ドメイン追加」ボタン、「ポート追加」ボタンのいずれかをクリックして、接続先を指定します。
③ PPPoE 接続名	アカウント2	「ＰＰＰｏＥ 設定」を任意の名前で登録できます。「PPPoE設定」アカウントリストから未設定のアカウントを選択した場合、選択したアカウント（アカウント 1 ～ 5）が自動的に表示されます。
④ユーザー名	myname@isp.ne.jp	プロバイダーより指定されたユーザー名（プロバイダーによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。「フレッツ・ADSL」や「B フレッツ」の場合、“@”から後ろもすべて入力します。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 60 文字までです。大文字と小文字は別の文字として扱われます。
⑤パスワード	Password02	プロバイダーより指定されたパスワード（プロバイダーによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。パスワードは画面上では「＊」や「●」で表示されます。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で25文字までです。大文字と小文字は別の文字として扱われます。

※半角英数字、記号…0～9、a～z、！” ＃ ＄ ％ ＆ ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ？ @ [￥] ^ _ { ¦ } ˜

項目名	入力例	説明
⑥接続方法	トリガー接続	インターネットへの接続方法を選択します。 ・常時接続：常にPPPoE接続した状態になります。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ・トリガー接続：パソコンからインターネットへの接続要求があったときに、自動的にPPPoE接続を開始します。 ・手動接続：「Status」から「詳細」ボタンをクリックして表示される「詳細情報-PPPoE」画面で「接続」ボタンをクリックすることでPPPoE接続を開始します。
⑦無通信タイマー	15	PPPoE接続で無通信状態になってから、自動的にPPPoE接続を切断するまでの時間を設定します。0～99分のあいだで設定してください。 ※0分を設定すると自動では切断しません。「接続方法」で「常時接続」を選択した場合は、「0」分になります。
⑧LAN TYPE	—	セッション2で選択し、NTT東日本が提供するフレッツ・グループアクセス、またはNTT西日本が提供するフレッツ・グループのLAN型払い出しを使用する場合にチェックを付けます。
⑨IPアドレス	12.34.56.77	⑧の「LAN TYPE」にチェックを入れたときに設定します。セッション2で接続したネットワークのグループ管理者より割り当てられたIPアドレスを入力します。
⑩サブネットマスク	255.255.255.0	⑧の「LAN TYPE」にチェックを入れたときに設定します。セッション2で接続したネットワークのグループ管理者より割り当てられたサブネットマスクを入力します。
⑪自動取得	—	プロバイダーからDNSサーバーを自動設定するような指示があった場合に有効にします。特に指定されていない場合も、「自動取得」を選択します。
⑫マニュアル設定	—	プロバイダーからDNSサーバーのIPアドレスを指定された場合に有効にします。「マニュアル設定」を有効にすると「優先DNSサーバー」と「代替DNSサーバー」の各入力欄が表示されます。
⑬優先DNSサーバー	12.34.56.78	プロバイダーから指定されたプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。

項目名	入力例	説明
⑭代替 DNS サーバー	98.76.54.32	プロバイダーから指定されたセカンダリ DNS サーバーの IP アドレスを入力します。 ※指定された DNS サーバーが 1 つの場合、優先 DNSサーバーにアドレスを入力してください。3 つ以上の DNS サーバーアドレスを設定する場合は、3 つ目以降を「Advanced」－「その他各種設定」の「バックアップDNSサーバー」に入力してください。
⑮接続先設定	—	セッション2を利用して通信する特定の接続先をIPアドレスもしくはドメイン名で指定します。「IPアドレス追加」ボタン、「ドメイン追加」ボタン、「ポート追加」ボタンをクリックして表示される、それぞれの「接続先設定」画面で接続先を登録します。詳しくは次ページをご覧ください。 ※「接続指定」でセッション2を選択したときのみ「有効」になります。 ・「IPアドレス追加」ボタン：特定の接続先をIPアドレスで指定する場合にクリックします。 ・「ドメイン追加」ボタン：特定の接続先をドメイン名で指定する場合にクリックします。 ・「ポート追加」ボタン：接続するポートを指定する場合にクリックします。 フレッツ・グループアクセス(NTT 東日本)/ フレッツ・グループ(NTT 西日本)のサービスを使用し、Windowsでファイルを共有する場合にNetBiosを透過する場合は、「NetBios有効」にチェックを付けます。

- **フレッツ・グループアクセス(NTT 東日本)/ フレッツ・グループ(NTT 西日本)のサービスを使用し、LAN TYPE の設定をすると、リモート設定を利用しなくても、セッション 2 のWAN側より本製品を設定することができます。セキュリティー上、パスワードの設定（P.83）およびリモート設定（P.110）で「リモート設定を使用する」にチェックを付けて、ポート番号の変更を行ってください。**
- **NetBios関連のポート（135、137、138、139、445、3389）は、「NetBios有効」にチェックを付けることで、設定できます。なお、これらのポート番号は、手動設定できません。手動で設定を行った場合や、正しく設定されていない場合には、いったん削除してから、「NetBios 有効」にチェックを付けて保存してください。**

・「接続先設定」画面について

セッション２を利用して通信する場合の接続先を設定します。

<接続先をIPアドレスで指定する場合>

1 「接続先設定」で「IPアドレス追加」ボタンをクリックします。

項目名	入力例	説明
① IPアドレス	10.20.30.40-0	セッション2で通信する接続先をIPアドレスの範囲で指定できます。セッション２で通信する接続先のIPアドレスの範囲を入力して、「追加」ボタンをクリックします。単独でIPアドレスを設定する場合は、終了アドレスに「0」を入力してください。ネットマスク範囲設定と合わせて最大10個まで登録できます。登録した接続先を有効にするには、リストに表示されているIPアドレスをクリックし、反転表示させてから、「保存」ボタンをクリックして設定内容を保存する必要があります。「Ctrl」キー＋左クリック※で複数選択も可能です。 ※ Mac OSご使用の場合は「コマンド」キー＋クリック
②ネットワーク	172.25.0.0/16	セッション２で通信する接続先のネットワークアドレスとネットマスクで指定できます。セッション２で通信する接続先のネットマスク範囲を入力して、「追加」ボタンをクリックします。IPアドレス範囲指定と合わせて最大10個まで登録できます。登録した接続先を有効にするには、リスト表示されているネットマスク範囲をクリックし、反転表示させてから、「保存」ボタンをクリックして設定内容を保存する必要があります。「Ctrl」キー＋左クリック※で複数選択も可能です。 ※ Mac OSご使用の場合は「コマンド」キー＋クリック

2 「閉じる」ボタンをクリックして、マルチPPPoEの設定画面に戻ったら「保存」ボタンをクリックします。

<接続先をドメイン名で指定する場合>

1 「接続先設定」で「ドメイン追加」ボタンをクリックします。

項目名	入力例	説明
①ドメイン名	myhome	セッション2で通信する接続先のドメイン名または文字列を入力し、「追加」ボタンをクリックしてリストに登録します。最大10個まで登録できます。登録した接続先を有効にするには、リストに表示されているドメイン名をクリックし、反転表示させてから、「保存」ボタンをクリックして設定内容を保存する必要があります。「Ctrl」キー＋左クリック※で複数選択も可能です。 ※ Mac OSご使用の場合は「コマンド」キー＋クリック

2 「閉じる」ボタンをクリックして、マルチPPPoEの設定画面に戻ったら「保存」ボタンをクリックします。

・「jp」のみ登録した場合は、「jp」を含むすべてのドメインを登録したことになります。
（例） www.abcd.co.jp
　　　www.abcd-jp.com
最後に「/」を入力すると文字列の終わりを示します。
「.jp/」と登録すると、「www.abcd-jp.com/」は該当せず、「www.abcd.co.jp」のみセッション2で通信するようになります。
・階層で接続先を登録する場合は以下のように登録してください。
　・.jp/　　　　：「jp」が付くすべてのドメインが登録されます。
　・.co.jp/　　　：「co.jp」が付くすべてのドメインが登録されます。
　・.xxxx.co.jp/：「xxxx.co.jp」が付くすべてのドメインが登録されます。
・フレッツ・スクウェアを接続先に登録する場合は「.flets/」を登録してください。

<接続するポートで指定する場合>

1　「接続先設定」で「ポート追加」ボタンをクリックします。

項目名	入力例	説明
①ポート	3389 - 3389	接続するポート番号を入力し、「追加」ボタンをクリックしてリストに登録します。 接続するポート番号を入力し、「追加」ボタンをクリックしてリストに登録します。 最大10個まで登録できます。単独でポート番号を設定する場合は、開始ポート、終了ポート間に同じ数字を入力します。（例：35-35）登録した接続先を有効にするには、リストに表示されているポート番号をクリックし、反転表示されてから、「保存」ボタンをクリックして設定内容を保存する必要があります。「Ctrl」キー+左クリック＊で複数選択も可能です。 ※Mac OSご使用の場合は「コマンド」キー＋クリック

2　「閉じる」ボタンをクリックして、マルチPPPoEの設定画面に戻ったら「保存」ボタンをクリックします。

フレッツ・グループアクセス(NTT東日本)/フレッツ・グループ(NTT西日本)のサービスを使用し、NetBios関連のポート（135、137、138、139、445、3389）は、「NetBios有効」（P.70の⑰）にチェックを付けることで、設定できます。なお、これらのポート番号は、手動設定できません。手動で設定を行った場合や、正しく設定されていない場合には、いったん削除してから、「NetBios有効」にチェックを付けて保存してください。

<ローカルルータとして接続する場合>

項目名	入力例	説明
① IP アドレス	12. 34. 56. 78	WAN 側の本製品の IP アドレスを入力します。
②サブネットマスク	255. 255. 255. 0	WAN側の本製品のサブネットマスクを入力します。
③ゲートウェイ	12. 34. 56. 1	WAN 側のデフォルトゲートウェイのアドレスを入力します。
④優先 DNS サーバー	12. 34. 56. 98	ネットワーク管理者から割り当てられた DNS サーバーアドレスを入力します。

■LAN（LAN側設定）～パソコン（LAN）側の設定をする～

本製品のローカル（LAN）側の設定を表示します。

1　メニューから「LAN」ボタンをクリックします。

項目名	入力例	説明
① IP アドレス	192. 168. 1. 1	本製品のローカル（LAN）側に設定する IP アドレスを入力します。特殊な設定以外は工場出荷時の状態で使用することをお勧めします。 ※工場出荷時の設定値は、「192. 168. 1. 1」です。
②サブネットマスク	255.255.255. 0	本製品のローカル（LAN）側に設定するサブネットマスクを入力します。 ※工場出荷時の設定値は、「255. 255. 255. 0」です。
③ DHCP サーバー	―	チェックを付けると本製品のDHCP機能が有効になります。 ※工場出荷時の設定値は、「有効」になっています。
④開始 IP アドレス	192.168. 1. 11	DHCPサーバーで本製品に接続するパソコンに自動的に割り当てられる IP アドレスの開始アドレスを入力します。 ※工場出荷時の設定値は、「192. 168. 1. 11」になっています。
⑤終了 IP アドレス	192. 168. 1. 60	DHCPサーバーで本製品に接続するパソコンに自動的に割り当てられる IP アドレスの終了アドレスを入力します。 ※工場出荷時の設定値は、「192. 168. 1. 60」になっています。

・「保存」をクリックすると、本製品に設定が反映されます。本製品のDHCPサーバーを利用している場合は、1度ユーティリティー画面を閉じ、パソコンを再起動させてください。パソコンのIPアドレスが設定変更後のLANの設定に合わせて、改めて割り当てられます。

・本製品で設定できるのはクラスCのみです。

■ Wireless ～ワイヤレス機能の設定をする～

本製品のワイヤレス機能の設定ができます。

1　メニューから、「Wireless」ボタンをクリックます。

次の画面で各項目の設定を行います。設定を変更したら、「保存」ボタンをクリックします。クリックすると、その時点で変更内容が本製品に反映されるので、無線接続しているパソコンは一時的にネットワークに接続できなくなります。本製品の変更内容に合わせて、パソコン側でも設定を変更してください。

設定が終了したら「保存」ボタンをクリックします。

項目名	説明
①アクセスポイント名	本製品のデバイス名が表示されます。 無線クライアント側にアクセスポイント名の表示機能がある場合は、本製品のデバイス名がアクセスポイント名として表示されます。
② ESSID	無線 LAN に接続する機器を識別する名前です。設定方法について詳しくは、「セキュリティーの設定をしよう（無線接続の場合）」（P.39）を参照してください。 ※工場出荷時は「corega」に設定されています。
③チャンネル	使用する電波の周波数（無線チャンネル）で、1～13の13種類の中から設定できます。周辺の電波と混信するような場合に変更してみてください。 ※工場出荷時は「6」になっています。
④ 802.11 モード	本製品に接続できる無線 LAN 規格を選択します。 ・「Auto」 : 802.11b か 802.11g かを自動判別します。 ・「802.11g」 : 802.11g 規格で接続します。802.11g 規格対応の無線クライアントのみ接続できます。 ・「802.11b」 : 802.11b 規格で接続します。無線クライアントが 802.11g に対応している場合も 802.11b としてのみ接続できます。
⑤転送レート	通常は「Auto」のまま使用します。自動的に転送可能なレートで通信を確保しようとします。固定レートを選択した場合は、電波状態が悪くなると通信が途切れる事があります。また設定した転送レートを持たない無線クライアントは接続できなくなります。
⑥セキュリティー	無線 LAN 上でやりとりされる通信内容を暗号化します。設定する場合は、「セキュリティー」ボタンをクリックします（P.80）。 ※工場出荷時は「OFF」に設定されています。
⑦ステルス AP	「有効にする」にチェックを付けると、アクセスポイントを検出する機能を使用しても、本製品のESSIDが表示されなくなります。これにより本製品の ESSID を知らない第三者からの不正アクセスを防止できます。
⑧ LAN アクセス制限	無線 LAN へのアクセスを制限します。設定する場合は、「選択した無線クライアントのみ」を選んでから、「クライアントの選択」ボタンをクリックします。 ※工場出荷時は「すべての無線クライアント」になっています （アクセス制限は設定されていません〈P.82〉）。
⑨インターネットアクセス制限	無線LANに接続しているパソコンのうち、インターネットへの接続を許可するパソコンを限定します。設定する場合は、「選択した無線クライアントのみ」を選択してから、「クライアントの選択」ボタンをクリックします。 ※工場出荷時は「すべての無線クライアント」になっています （アクセス制限は設定されていません〈P.82〉）。

・「WEP 設定」画面

本製品に「64 Bit WEP」または「128 Bit WEP」を設定します。設定方法について、詳しくは「セキュリティーの設定をしよう（無線接続の場合）」（P.39）を参照してください。

1 設定ユーティリティーのメニューから「Wireless」をクリックします。

2 「アクセスポイント」画面の「セキュリティー」ボタンをクリックします。

3 「セキュリティー方法」で「WEP」を選択します。

※上の画面は「128 Bit」をクリックしたときの画面表示例です。

項目名	説明
①暗号方式	「64bit」「128bit」から選択します。暗号キーの欄が「64 bit」を選ぶと 10 桁、「128 bit」を選ぶと 26 桁表示されます。
②認証方式	「Auto」「Open System」「Shared Key」から選択します。通常は、工場出荷時の「Auto」の設定のままにします。
③キー 1 ～ 4	キー 1 ～キー 4 のそれぞれについて、①で「64 Bit」を選ぶと 10 桁、「128 Bit」を選ぶと 26 桁の入力欄が表示されます。直接入力する場合は、入力するキーのラジオボタンをクリックして選択し、設定する暗号キーを 2 桁の 16 進数(0 ～ 9、a ～ f)で入力してください。 「キー文字列」(⑤)を入力して「コード生成」(④)することで、自動的に生成することができます。
④コード生成	クリックすると、⑤で入力した文字列をもとに、暗号コードを生成します。
⑤キー文字列	ここに入力した文字列から、WEP で使用される暗号キーがキー 1 ～ 4 のラジオボタンで選択したキーに生成されます。 1 ～ 32 文字の、半角英数字(0 ～ 9、a ～ z)を入力します（大文字と小文字は区別されます）。大文字と小文字は区別されます。なお、③で直接数値を入力する場合、この欄への入力は不要です。

4 「保存」をクリックします。

「保存」をクリックすると、その時点で変更内容が本製品に反映されて、無線接続しているすべてのパソコンが一時的にネットワークに接続できなくなります。設定後は、必ず、無線接続するすべてのパソコンに同じ設定を行ってください。

・「WAP-PSK」画面

本本製品に「WAP-PSK」の設定します。設定方法について、詳しくは「セキュリティーの設定をしよう（無線接続の場合）」（P.39）を参照してください。

1　設定ユーティリティーのメニューから「Wireless」をクリックします。

2　「アクセスポイント」画面の「セキュリティー」ボタンをクリックします。

3　「セキュリティー方法」で「WPA-PSK」を選択します。

項目名	説明
①共有キー	共有キーは、半角英数文字(0～9、a～z、!”＃＄％＆’( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [￥] ^ _ { ¦ } ˜)で入力します(8～63 文字まで) 。
②更新時間	暗号キーを変更する秒数を設定します。入力した秒数毎に暗号キーを変更し、より強固なセキュリティーをかけることができます。
③暗号方式	暗号方式は TKIP のみになります。

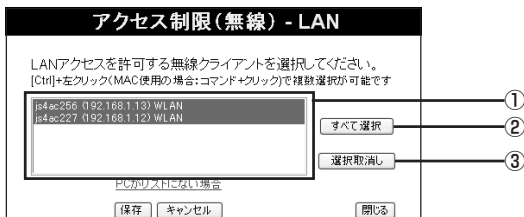
4　「保存」をクリックします。

「保存」をクリックすると、その時点で変更内容が本製品に反映されて、無線接続しているすべてのパソコンが一時的にネットワークに接続できなくなります。設定後は、必ず、無線接続するすべてのパソコンに同じ設定を行ってください。

・「アクセス制限（無線）－ LAN」画面

無線 LAN アクセス制限を設定します。

1　設定ユーティリティーのメニューから「Wireless」をクリックします。

2　「アクセスポイント」画面の「LANアクセス制限」の下の「選択した無線クライアントのみ」を選び、「クライアントの選択」ボタンをクリックします。

項目名	説明
①クライアントリスト	本製品に接続しているすべての無線クライアントが自動的に表示されます。ここで選択した（反転表示になった）クライアントのみに対して、無線LANへの接続が許可されます。アクセスを制限したいクライアントは選択を外します（反転表示を解除します）。「Ctrl」キー＋左クリック※で複数選択も可能です。 ※ MacOS ご使用の場合は「コマンド」キー＋クリック
②すべて選択	リストにあるすべての無線クライアントを一括選択します。
③選択取り消し	リスト上の選択（反転表示）を一括解除します。

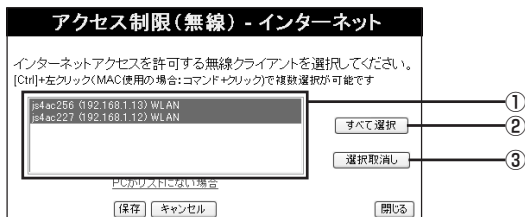
アクセス制限をしたいクライアントが表示されていない場合は、「PC データベース」で手動で追加してください。詳しくは本PARTの「PCデータベース ～接続しているパソコンを表示する～」（P.105）を参照してください。

3　「保存」をクリックして、設定した内容を反映させます。

・「アクセス制限（無線）−インターネット」画面

本製品経由でのインターネット接続を許可するパソコンをあらかじめ指定します。

1 設定ユーティリティーのメニューから「Wireless」をクリックします。

2 「アクセスポイント」画面の「インターネットアクセス制限」の下の「選択した無線クライアントのみ」を選び、「クライアントの選択」ボタンをクリックします。

項目名	説明
①クライアントリスト	本製品に接続しているすべての無線クライアントが自動的に表示されます。ここで選択した（反転表示になった）クライアントのみに対して、インターネットへの接続が許可されます。アクセスを制限したいクライアントは選択を外します（反転表示を解除します）。「Ctrl」キー+左クリック※で複数選択も可能です。 ※ MacOS ご使用の場合は「コマンド」キー＋クリック
②すべて選択	リストにあるすべての無線クライアントを一括選択します。
③選択取り消し	リスト上の選択（反転表示）を一括解除します。

アクセス制限をしたいクライアントが表示されていない場合は、「PC データベース」の詳細設定で手動で追加してください。詳しくは本 PART の「PC データベース 〜接続しているパソコンを表示する〜」（P.105）を参照してください。

3 「保存」をクリックして、設定した内容を反映させます。

■ Password（パスワード） 〜本製品の設定変更を制限する〜

本製品の設定ユーティリティーにアクセスする際のログイン名とパスワードを設定します。ログイン名とパスワードを設定すると、設定ユーティリティーを起動する際にログイン名とパスワードの入力が必要になります。セキュリティー上、パスワードの設定をおすすめします。パスワードの変更手順については、「PART5 トラブルや疑問があったら」「本製品のパスワードを変更したい」（P.57）を参照してください。

・パスワードを忘れると、設定ユーティリティーで設定を変更できなくなりますので、ご注意ください。
・ログイン名およびパスワードで空白を設定すると認証を行わずに設定ユーティリティーにアクセスすることができます。なお、Init スイッチを使用し、本製品を工場出荷時の状態に戻すことにより、設定したパスワードは初期化されます。

■ Status（ステータス） ～現在の接続状態を表示する～

インターネットへの接続状態や本製品のシステム情報などを表示します。利用する接続方式によって表示される画面が異なります。

1　メニューから「Status」ボタンをクリックします。

＜ DHCP を利用する場合＞＜固定 IP アドレスで接続する場合＞

＜ PPPoE 接続の場合＞＜マルチ PPPoE 接続の場合＞

項目名	説明
①接続タイプ	現在、使用されている接続タイプを表示します。
②モデムの状態	現時点での本製品のWANポートとモデム等の機器との接続状態を表示します。 ・「ON」:接続されています。 ・「OFF」:未接続です。
③接続状態	現時点での接続状態を表示します。 ・「接続中」: 正常に動作しています。 ・「未接続」: WAN 側のネットワークと通信できていません。
④ WAN側IPアドレス	本製品の WAN 側の IP アドレスを表示します。 ※マルチ PPPoE 設定の場合、「WAN 側 IP アドレス」(セッション 1)の下にセッション 2 の IP アドレスも表示されます。
⑤ LAN側IPアドレス	本製品の LAN 側の IP アドレスを表示します。
⑥サブネットマスク	本製品の LAN 側のサブネットマスクを表示します。
⑦ DHCP サーバー	本製品のDHCPサーバー機能の状態を表示します。「ON」か「OFF」のいずれかが表示されます。
⑧デバイス名	本製品のデバイス名を表示します。デバイス名は「WGXXXXXX」で表示されます。「XXXXXX」は本製品の LAN 側の MAC アドレスの下 6 桁の数値です。
⑨ファームウェアバージョン	本製品のファームウェアのバージョンを表示します。

ボタンについて

ボタン名	説明
再読み込み	最新の接続状態を表示したいときにクリックします。
詳細	接続状態の詳細を表示したいときにクリックします（本ページ）。
ファームウェア更新	「ファームウェア更新」画面を表示したいときにクリックします。ファームウェアの更新の方法は、「PART5 トラブルや疑問があったら」「最新のファームウェアを入手してアップデートしたい」（P.55）を参照してください。
設定保存	現在の設定内容をバックアップできます。設定変更後に通信できなくなったときなどに保存したバックアップファイルを使用して、設定内容を元に戻します。 次の手順で設定をバックアップします。 ①「設定保存」ボタンをクリックします。 ②「ファイルのダウンロード」画面の「保存」ボタンをクリックします。 ③「名前を付けて保存」画面で保存先とファイル名を指定して「保存」ボタンをクリックします。 バックアップファイルを元に戻す方法は、PART5 の「最新のファームウェアを入手してアップデートしたい」（P.55）とほぼ同じです。手順４で保存したバックアップファイルを選択してください。
システムデータ	システム情報を表示したいときにクリックします。
リセット機能	本製品のシステムリブート、または工場出荷時の状態に戻すときにクリックします。詳しくは、「PART5 トラブルや疑問があったら」の「本製品を再起動したい」（P.58）または「本製品を工場出荷時の状態に戻したい」（P.59）を参照してください。
ログ機能	ログ機能の設定を行うときにクリックします（P.91）。
E-Mail 機能	E-Mail 機能の設定を行うときにクリックします（P.92）。

・「詳細情報」画面

インターネットへの接続状態の詳細情報が表示されます。

1　メニューから「Status」ボタンをクリックします。

2　「ステータス」画面の「詳細」ボタンをクリックします。

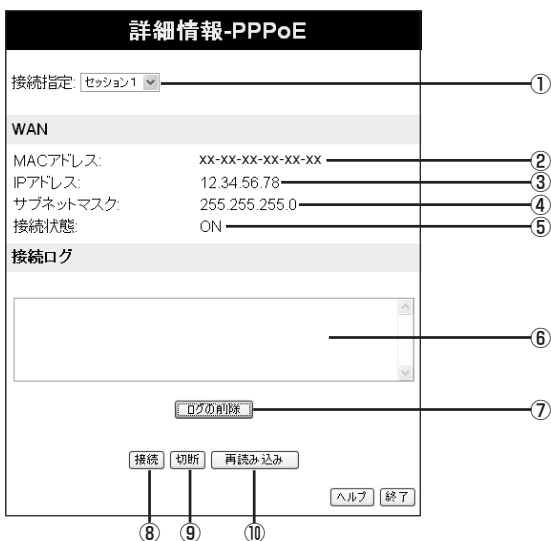
利用する接続方式によって、表示される画面が異なります。

＜ DHCP を利用する場合＞

項目名	説明
① MAC アドレス	本製品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。 ※LAN 側の MAC アドレスは「ステータス」画面の「システム データ」ボタンをクリックして表示される画面で確認できます。
② IP アドレス	本製品の WAN 側の IP アドレスが表示されます。
③サブネットマスク	本製品の WAN 側の IP アドレスに使用するサブネットマスクが表示されます。
④ゲートウェイ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するゲートウェイが表示されます。
⑤ DNS サーバー	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するDNSサーバーのアドレスが表示されます。
⑥ DHCP クライアント	WAN 側の DHCP クライアント機能の状態が表示されます。
⑦リース取得	IP アドレスを取得した日時が表示されます。
⑧残りリース時間	IP アドレスが解放されるまでの残り時間が表示されます。
⑨解放 / 書き換え	解放　　：取得している IP アドレスを解放します。 書き換え：DHCP クライアントが「ON」のときに IP アドレスを取得します。
⑩再読み込み	最新の情報を表示します。

＜固定 IP アドレスで接続する場合＞

項目名	説明
① MAC アドレス	本製品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。 ※ LAN 側の MAC アドレスは「ステータス」画面の「システム データ」ボタンをクリックして表示される画面で確認できます。
② IP アドレス	本製品の WAN 側の IP アドレスが表示されます。
③サブネットマスク	本製品の WAN 側の IP アドレスに使用するサブネットマスクが表示されます。
④ゲートウェイ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するゲートウェイが表示されます。
⑤ DNS サーバー	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するDNSサーバーのアドレスが表示されます。
⑥DHCPクライアント	WAN 側の DHCP クライアント機能の状態が表示されます。

< PPPoE 接続の場合 >

項目名	説明
①接続指定	詳細を表示するセッションを「セッション 1」と「セッション 2」から選択します。
② MAC アドレス	本製品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。 ※ LAN 側の MAC アドレスは「ステータス」画面の「システム データ」ボタンをクリックして表示される画面で確認できます。
③ IP アドレス	本製品の WAN 側の IP アドレスが表示されます。
④サブネットマスク	本製品の WAN 側の IP アドレスに使用するサブネットマスクが表示されます。
⑤接続状態	現在の接続状態を表示します。 ・「ON」 ：接続中です。 ・「OFF」：未接続です。 ※「接続方法」の設定を「トリガー接続」、または「手動接続」にしていて、未接続の場合に「接続」ボタンをクリックすると、インターネットに接続できます。「切断」ボタンをクリックするとインターネット接続を切断します。
⑥接続ログ	インターネットへの接続ログが表示されます。ログメッセージの詳細は、ヘルプを参照してください。
⑦ログの削除	表示されているログを削除します。
⑧接続	接続状態が「OFF」のときにインターネットへの接続を行います。「接続方法」の設定を「トリガー接続」、または「手動接続」にしているときのみ、使用できます。
⑨切断	接続状態が「ON」のときにインターネットへの接続を切断します。「接続方法」の設定を「トリガー接続」、または「手動接続」にしているときのみ、使用できます。「常時接続」に設定している場合は、いったん接続を切断されますが、すぐに再接続されます。
⑩再読み込み	最新のログを表示します。

＜ LOCAL OFFICE 接続の場合＞

詳細情報

WAN

MACアドレス: XX-XX-XX-XX-XX-XX ①
IPアドレス: 12.34.56.78 ②
サブネットマスク: 255.255.255.0 ③
ゲートウェイ: 12.34.56.1 ④
DNSサーバー: 12.34.56.98 ⑤
DHCPクライアント: OFF ⑥

ヘルプ 終了

項目名	説明
① MAC アドレス	本製品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。 ※ LAN 側の MAC アドレスは「ステータス」画面の「システム データ」ボタンをクリックして表示される画面で確認できます。
② IP アドレス	本製品の WAN 側の IP アドレスが表示されます。
③サブネットマスク	本製品の WAN 側の IP アドレスに使用するサブネットマスクが表示されます。
④ゲートウェイ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するゲートウェイが表示されます。
⑤ DNS サーバー	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するDNSサーバーのアドレスが表示されます。
⑥ DHCP クライアント	WAN 側の DHCP クライアント機能の状態が表示されます。

・「ログ機能」画面

本製品では、インターネット接続やアクセス制限などのログを残すことができます。

1 メニューから「Status」ボタンをクリックします。

2 「ステータス」画面の「ログ機能」ボタンをクリックします。

項目名	説明
①インターネット接続ログ	チェックを付けるとインターネット接続に関してのログを残します。「ログ情報」ボタンをクリックすると現在のログを表示します。「削除」ボタンをクリックするとログが削除されます。 ※工場出荷時は「有効」になっています。
②アクセス制限ログ	チェックを付けるとアクセス制限機能によってブロックされた情報をログに残します。「ログ情報」ボタンをクリックすると現在のログを表示します。「削除」ボタンをクリックするとログが削除されます。 ※工場出荷時は「有効」になっています。
③DoS（Denial of Service）アタック検出ログ	チェックを付けるとDoS（Denial of Service）攻撃を検出したときにログを残します。「ログ情報」ボタンをクリックすると現在のログを表示します。「削除」ボタンをクリックするとログが削除されます。 ※工場出荷時は「有効」になっています。

3 上記項目の設定後、「保存」ボタンをクリックして設定を反映します。

・「E-Mail 機能」画面

本製品には、E-Mail によるログ情報の配信機能があります。本機能を使用することで DoS（Denial of Service）攻撃が検出された時に管理者に対してログメールで通知することも可能です。

1　メニューから「Status」ボタンをクリックします。

2　「ステータス」画面の「E-Mail機能」ボタンをクリックします。

項目名	入力例	説明
① DoS アタック検出時にログを送信する	ー	チェックを付けると「送信先E-Mailアドレス」で設定したE-Mail アドレスにDoS（Denial of Service)攻撃を検出したときのログを送信します。「ログ機能」画面で「DoS（Denial of Service）アタック検出ログ」を有効にしておく必要があります。 ※工場出荷時は「無効」になっています。
②インターネット接続ログ	ー	チェックを付けるとインターネット接続に関してのログ情報をE-Mailで送信します。「ログ機能」画面で「インターネット接続ログ」を有効にしておく必要があります。 ※工場出荷時は「無効」になっています。
③アクセス制限ログ	ー	チェックを付けるとアクセス制限機能を使用してブロックされたログ情報をE-Mailで送信します。「ログ機能」画面で「アクセス制限ログ」を有効にしておく必要があります。 ※工場出荷時は「無効」になっています。
④送信	ー	ログ情報を送信するタイミングを選択します。ログが一杯になったときに送信する場合は「a」を選択します。曜日と時間を決めて送信する場合は「b」を選択して曜日と時間を指定します。 ※ログ情報がいっぱいになると、設定よりも前に送信されます。

項目名	入力例	説明
⑤送信先 E-Mail アドレス	corega@xxx.ne.jp	ログ情報の送信先（E-Mailアドレス）を設定します。 ※ 入力可能な文字は、半角英数字、記号で32文字までです。
⑥件名	Logs info	「E-Mail ログ送信」を有効にした場合、E-Mail 送信時の件名を入力します。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で29文字までです。 ※件名に全角文字を入れた場合、受信側で文字化けする場合があります。
⑦送信用（SMTP） サーバー	12. 34. 56. 1	プロバイダーから指定されたメール送信用(SMTP)サーバーのホスト名か IP アドレスを設定します。 ※ホスト名を指定する場合、入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 50 文字までです。
⑧ポート番号	25	送信用（SMTP）サーバーに接続する際に使用するポート番号を設定します。 ※ポート番号は 1 ～ 65534 の半角数字を入力してください。 ※工場出荷時のポート番号は「25」になっています。

※半角英数字、記号…0～9、a～z、！ ” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

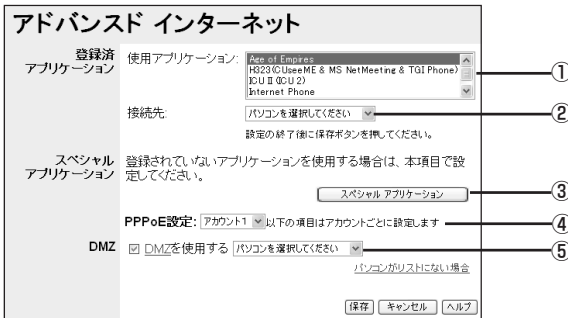
3　上記項目の設定後、「保存」ボタンをクリックして設定を反映します。

■ Advanced　～より高度な機能を設定する～

ネットワークアプリケーションを利用する際のポート設定やセキュリティの設定、バーチャルサーバーの設定など、本製品のより高度な機能の設定ができます。

・アドバンスドインターネット ～ネットワークアプリケーションを利用できるようにする～

ネットワークゲームなど、ファイアーウォールによって、着信データの接続先が不明になってしまうアプリケーションを利用する際のポート設定を行います。おもなアプリケーションについては、あらかじめ入力／出力ポートが設定してあります。

1　メニューから「Advanced」ボタン－「アドバンスドインターネット」をクリックします。

※マルチ PPPoE 接続の場合の画面例です。

項目名	説明
①登録済アプリケーション	使用するアプリケーションを選択します。ここに表示されるのは、入力／出力ポートが設定済みのアプリケーションです。
②接続先	アプリケーションを利用するパソコンを選択します。利用したいパソコンがリストにない場合は、「PC データベース」（P.105）で登録してください。
③スペシャルアプリケーション	「登録済アプリケーション」の一覧にないアプリケーションを利用する場合や、アプリケーションが正しく動作しない場合は、「スペシャルアプリケーション」ボタンをクリックして、新しく設定します（P.95）。
④ PPPoE 設定	DMZ 設定する場合のアカウント（接続先）を選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
⑤ DMZ	DMZ 機能を有効にします。「登録済アプリケーション」や「スペシャルアプリケーション」で設定してもアプリケーションが動作しない場合にはDMZ機能を使用します。アプリケーションを利用するパソコンを選択して、「DMZ を使用する」にチェックを入れます。 ※DMZを設定したパソコンは、本製品のセキュリティー機能が無効になるため、セキュリティーが弱くなります。DMZ機能は必要な場合のみ有効にしてご使用ください。 ※マルチ PPPoE 接続の場合は、アカウントごとに設定することができます。

2　上記項目の設定後、「保存」ボタンをクリックして設定を反映します。

・「スペシャルアプリケーション」画面

「アドバンスドインターネット」画面の「登録済アプリケーション」の一覧にないアプリケーションを利用する場合や、アプリケーションが正しく動作しない場合には、個別に設定ができます。

1　メニューから「Advanced」ボタン－「アドバンスドインターネット」をクリックします。

2　「アドバンスドインターネット」画面で「スペシャルアプリケーション」ボタンをクリックします。

項目名		入力例	説明
①チェックボックス		―	利用するアプリケーションにチェックを入れます。
②名称		dialpad	ネットワークアプリケーションの名前を任意で入力します。 ※ 入力可能な文字数は、半角英数字、記号で 12 文字までです。大文字は小文字に自動的に変換されます。
③入力ポート番号	タイプ	udp	入力ポートのプロトコルタイプを選択します。
	開始	51200	パソコンがデータを受信する際に使用するポート番号の範囲を入力します。 ※ポート番号には 1 ～65534の半角数字を入力してください。
	終了	51201	
④出力ポート番号	タイプ	udp	出力ポートのプロトコルタイプを選択します。
	開始	51200	パソコンがデータを送信する際に使用するポート番号の範囲を入力します。 ※ポート番号には 1 ～65534の半角数字を入力してください。
	終了	51201	

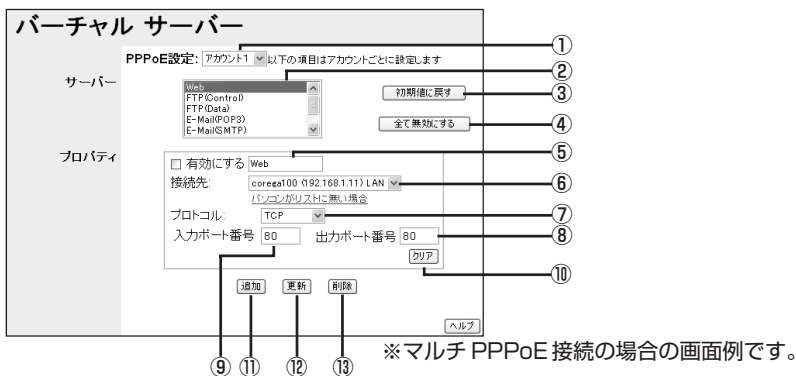
半角英数字、記号… 0～9、a～z、！” ＃ ＄ ％ ＆ ’ （ ）＊＋，-．/ ：；< = > ？＠［ ￥ ］＾＿｛ ¦ ｝￣

- アプリケーションのポート等の設定については、アプリケーションの開発元にお問い合わせください。
- スペシャルアプリケーションを使用できるパソコンは、それぞれ 1 台のみです。

3　上記項目の設定後、「保存」ボタンをクリックして設定を反映します。

・バーチャルサーバー　～インターネット上にサーバーを公開する～

インターネット（WAN側）から本製品のLAN上のパソコンにアクセスできるようにします。外部にサーバーを公開できます。

1　メニューから「Advanced」ボタン－「バーチャルサーバー」をクリックします。

※マルチ PPPoE 接続の場合の画面例です。

項目名	入力例	説明
① PPPoE 設定	アカウント１	バーチャルサーバーを公開するためのアカウント（接続先）を選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
②サーバー	Web	利用したいサーバーを選択します。
③初期値に戻す	―	選択したバーチャルサーバーの設定を初期設定に戻します。
④全て無効にする	―	一覧に表示されているすべてのバーチャルサーバーを無効にします。
⑤有効にする	Web	選択したバーチャルサーバーにチェックを付けて⑫の「更新」ボタンをクリックすると、有効になります。新しくサーバーを追加するときは、ここにサーバー名を入力して⑥～⑨の設定を行い、⑪の「追加」、⑫の「更新」ボタンをクリックすることで有効になります。 ※工場出荷時は「無効」になっています（チェックは入っていません）。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 16 文字までです。
⑥接続先	corega100	バーチャルサーバーにするパソコンを選択します。利用したいパソコンがリストにない場合は、「PC データベース」（P.105）で登録してください。
⑦プロトコル	TCP	開放するプロトコルのタイプを選択します。
⑧出力ポート番号	80	インターネット側からサーバーに接続するためのポート番号を入力します。 ※ポート番号には１～65534の半角数字を入力してください。

半角英数字、記号… 0～9、a～z、！”＃＄％＆’（）*＋，-．/：；＜＝＞？＠［￥］＾＿｛¦｝˜

項目名	入力例	説明
⑨入力ポート番号	80	サーバーソフトが使用するポート番号を入力します。 ※ポート番号には1～65534の半角数字を入力してください。
⑩クリア	―	プロパティに入力した内容をクリアします。
⑪追加	― ―	設定したバーチャルサーバーを②のサーバー一覧に追加します。 ※ 登録済みの他のサーバー名から名称を変更する必要があります。
⑫更新	―	選択したバーチャルサーバーの設定内容を更新します。
⑬削除		選択したバーチャルサーバーを削除します。

登録可能なサーバー数は40です。

・ダイナミックDNS（DDNS）
～バーチャルサーバーにURLでアクセスできるようにする～

インターネット上からIPアドレスではなくURLを指定してLAN内のバーチャル サーバーに接続できるようにします。ダイナミックIPアドレスのようなIPアドレスが固定されないサービスでも、LAN内のバーチャルサーバーにアクセスできるようになります。

ダイナミックDNSは、以下の手順で設定します。

1 無料または有料サービスを提供しているDDNSサイトで登録手続きをします。本製品から登録することができます。(ここでは、例として「http://www.dyndns.org」に登録しています。)
登録が完了すると、ユーザー登録確認メールが、E-Mailで送られてきます。

2 メニューから「Advanced」ボタン－「ダイナミックDNS」をクリックし、登録したDDNSユーザー名とパスワード、使用したいドメイン名を入力して「保存」をクリックします。

※マルチPPPoE接続の場合の画面例です。

項目名	入力例	説明
① PPPoE 設定	アカウント 1	ダイナミック DNS 機能を利用してバーチャルサーバーを公開するためのアカウント（接続先）を選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
② http://www.dyndns.org	―	ＤＤＮＳ サイトの１ つである「ｈｔｔｐ：／／www.dyndns.org」へのリンクです。ここでサービスへの登録ができます（2004年6月現在、サービスは無料です）。
③ DDNS サービス	―	登録したダイナミック DNS のサービス名を選択します。
④ユーザ名	corega	DDNSサイトで登録したユーザ名を入力してください。 ※ 入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 15文字までです。
⑤パスワード	Password 02	DDNSサイトで登録したパスワードを入力してください。 ※ 入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 15 文字です。入力したパスワードは画面上では「●」または「＊」で表示されます。入力ミスのないようにご注意ください。
⑥ドメイン名	corega	DDNSサイトで登録した希望のドメイン名を入力してください。 ※ 一度取得したドメイン名は本製品から変更できません。ドメイン名を変更する必要があれば、DDNS サイトでアカウントを終了し、その後、新たに登録をしなおしてください。 ※ 使用可能な文字は、半角英数字、記号で、左側の入力欄は 24 文字以内、中央の入力欄は 16 文字以内、右側の入力欄は４文字以内で入力してください。
⑦ DDNS ステータス	―	DDNS サイトにある DDNS サーバーからのメッセージを表示します。

半角英数字、記号… 0〜9、a〜z、！”＃＄％＆’()*+,-./:;<=>？＠[￥]^_{¦}~

3 設定を保存すると、本製品はその時点で使用しているIPアドレスを自動的にDDNSサイトに記録します。「DDNSステータス」欄で、希望のドメイン名が取得できたかどうか、確認してください。

設定したダイナミックDNSを使用してバーチャルサーバーなどへの接続が可能になります。

DDNS サイトへの登録は、お客様の自己責任で行ってください。登録に関して弊社では一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

・アクセス制限　～パソコンのアクセスを制限する～

ローカル（LAN）側に接続されているパソコンからインターネット（WAN）側へのアクセスを制御します。アクセス制限は、グループごとに設定できます。

1　メニューから「Advanced」ボタンー「アクセス制限」をクリックします。

※マルチ PPPoE 接続の場合の画面例です。

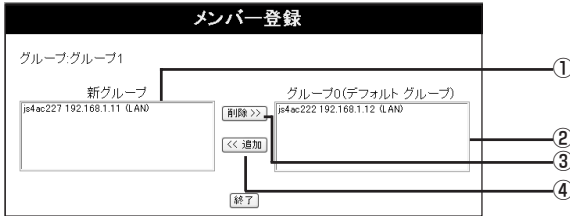
項目名	入力例	説明
①グループ選択	グループ0	アクセス制限をするグループを選択します。※工場出荷時は「グループ0」になっています。
②メンバー登録	ー	グループ0以外のグループのメンバーを編集できます（P.100)。
③ PPPoE 設定	アカウント1	インターネット側（WAN側）へアクセスするアカウントを選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
④アクセス制限	なし	アクセスを制限するかどうかを選択します。 ・「なし」：アクセスは制限されません。 ・「全てのサービス」：全てのサービスがアクセス制限されます。 ・「選択したサービス」：「サービス」で選択したサービスのみ、アクセス制限されます。 ※工場出荷時は「なし」になっています。
⑤スケジュール	なし	アクセス制限するスケジュールを選択します。「なし」を選択すると常にアクセス制限が有効になります。※工場出荷時は「なし」になっています。
⑥スケジュール設定	ー	スケジュール内容を設定したいときにクリックします。曜日ごとにアクセス制限をする時間帯を設定できます（P.101)。
⑦サービス	ー	アクセス制限をしたいサービスを選択します。
⑧サービスの編集	ー	アクセス制限するサービスを設定したいときにクリックします。サービスの追加や削除ができます(P.102)。
⑨ログ情報	ー	アクセス制限ログの情報を確認したいときにクリックします。
⑩ログの削除	ー	アクセス制限ログの情報を削除したいときにクリックします。

2　上記項目の設定後、「保存」ボタンをクリックして、設定を反映します。

「メンバー登録」画面

アクセス制限をするグループを作成します。

1　メニューから「Advanced」ボタンー「アクセス制限」をクリックします。

2　「アクセス制限」画面で「グループ選択」のメニューから「グループ0」以外のグループを選択し、「メンバー登録」ボタンをクリックします。

項目名	説明
①新グループ	選択したグループのメンバーを表示します。新しくグループを作成したときは、空欄になっています。
②グループ０	デフォルトメンバーを表示します。本製品に接続されているすべてのパソコンが表示されます。
③削除	選択したメンバーを新グループから削除します。
④追加	選択したメンバーを新グループに追加します。

3　上記項目の設定後、「終了」ボタンをクリックして、設定を反映します。

・グループ０に表示されているパソコンは、本製品が認識しているパソコンの一覧ですの で、新グループに追加しても、一覧から削除されません。また、１つのパソコンを異なるグループ（グループ０を除く）に重複して登録することはできません。
・登録可能なパソコンは最大 50 台です。

「スケジュール設定」画面

アクセス制限をするスケジュールを設定します。スケジュールは、曜日単位で設定できます。

1　メニューから「Advanced」ボタン－「アクセス制限」をクリックします。

2　「アクセス制限」画面で「スケジュール設定」ボタンをクリックします。

項目名	入力例	説明
①スケジュール 1、 スケジュール 2	ー	アクセス制限をする時間帯を選択します。1日のうちで、2つの時間帯を設定できます。
②開始、終了	00:00、06:00	アクセス制限の開始時間と終了時間を入力します。

3　上記項目を設定後、「保存」ボタンをクリックすると設定が反映されます。

「サービス」画面

アクセス制限をするサービスの追加、削除を行います。

1　メニューから「Advanced」ボタン－「アクセス制限」をクリックします。

2　「アクセス制限」画面で「サービスの編集」ボタンをクリックします

項目名	入力例	説明
①登録済みサービス	―	登録済みのサービスの一覧を表示します。削除したいサービスを選択してください。「削除」ボタンをクリックすると、選択したサービスが削除されます。
②サービス名	HTTP	追加登録するサービス名を入力します。
		※入力可能な文字は、半角英数字、記号で12文字までです。
③タイプ	TCP	追加登録するサービスのプロトコルを選択します。
④開始ポート番号	80	サービスが使用するポート番号を入力します。
⑤終了ポート番号	80	サービスが使用するポート番号を入力します。
⑥ICMP タイプ	―	「タイプ」で「ICMP」を選択した場合に入力します。

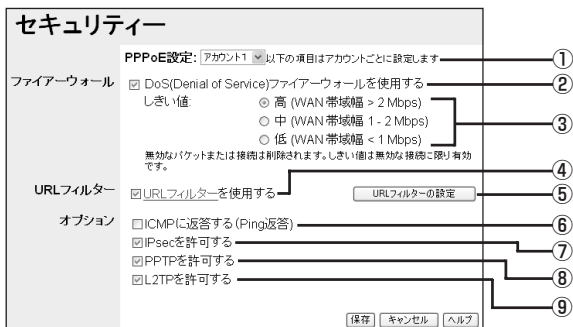
半角英数字、記号… 0～9、a～z、！”＃＄％＆’（）＊＋，－．／：；<＝>？＠［￥］＾＿｛¦｝˜

- **アクセス制限したいサービスの使用するポートがひとつだけの場合は、「開始ポート番号」と「終了ポート番号」に同じポート番号を入力します。**
  入力例の場合、HTTPは80番ポートなので、開始ポート番号に「80」、終了ポート番号に「80」と入力します。
- **登録済みのサービス数は40です。サービスの追加可能数は30です。**

3　各設定項目を入力後、「追加」ボタンをクリックすると、「登録済みサービス」にサービスが追加されます。

・セキュリティー　～外部からの不正なアクセスを防ぐ～

本製品のセキュリティ機能の設定を行います。

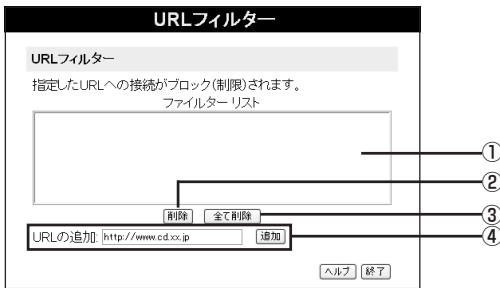
1　メニューから「Advanced」ボタン－「セキュリティー」をクリックします。

※マルチ PPPoE 接続の場合の画面例です。

項目名	説明
① PPPoE 設定	セキュリティー機能を設定するアカウント（接続先）を選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
② DoS（Denial of Service）ファイアウォールを使用する	有効にすると、DoS（Denial of Service）攻撃への防御ができます。 ※工場出荷時は「有効」になっています。通常はこのまま使用することをお勧めします。
③しきい値	使用しているインターネットの帯域を選択します。 ※工場出荷時は「高」になっています。
④ URL フィルターを使用する	有効にすると、指定した URL への接続を制限します。 ※工場出荷時は「有効」になっていますが、「URL フィルターの設定」には何も登録されていないため、URL のフィルタリングはされません。
⑤ URL フィルターの設定	「URL フィルター」画面が表示されます（P.104）。接続制限をする URL を設定します。
⑥ ICMP に返答する	本製品に ping コマンドが送信された場合に返答するかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「無効(返答しない)」になっています。
⑦ IPsec を許可する	IPsec を使用し、VPN (Virtual Private Networking)のパススルーを可能にするかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「許可する（IPsec のパススルーが可能）」になっています。
⑧ PPTP を許可する	PPTP を使用し、VPN (Virtual Private Networking) のパススルーを可能にするかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「許可する（PPTP のパススルーが可能）」になっています。
⑨ L2TP を許可する	L2TP を使用し、VPN (Virtual Private Networking)のパススルーを可能にするかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「許可する（L2TP のパススルーが可能）」になっています。

2　上記項目の設定後、「保存」ボタンをクリックして、設定を反映します。

「URL フィルター」画面

1　メニューから「Advanced」ボタンー「セキュリティ」をクリックします。

2　「セキュリティ」画面で「URLフィルターの設定」ボタンをクリックします。

項目名	入力例	説明
①フィルターリスト	−	接続制限をするURLのリストが表示されます。
②削除	−	選択したURLを削除します。
③全て削除	−	フィルターリストに登録されているURLをすべて削除します。
④URLの追加	http://www.cd.xx.jp	接続制限をしたいURLを入力し、「追加」ボタンをクリックすると、フィルターリストにURLが追加されます。 文字列（例：violence）を入力すると、その文字列を含むURLがアクセス制限されます。 ※ 入力可能な文字は、半角英数字、記号で72文字までです。

半角英数字、記号… 0～9、a～z、 - . @

- **登録可能なURLの数は50です。**
- **URLを登録した場合、「http://」は省略されてフィルターリストに表示されます。**

3　上記項目の設定後、「終了」ボタンをクリックして、「URLフィルター」画面を終了します。

・PC データベース　～接続しているパソコンを表示する～

本製品に接続しているパソコンの一覧を表示します。LAN 上のパソコンや固定 IP アドレスの情報を管理できます。
「DHCP クライアント」のパソコンは、一覧に自動的に追加されます。固定IPアドレスを使用しているパソコンは手動で追加します。
バーチャル サーバーや DMZ などを固定 IP アドレスのパソコンで設定する際は、かならず PC リストに手動で登録してください。

1　メニューから「Advanced」ボタンー「PCデータベース」をクリックします。

項目名	入力例	説明
① PC リスト	－	現在、接続されているパソコンもしくはネットワーク機器を表示します。 ※ DHCP クライアントは、自動的に PC リストに表示されます。表示されていない場合は、対象のパソコンを再起動してください。固定IPアドレスを使用しているパソコンは、手動でリストに追加します。 ※ 本製品に無線で接続しているパソコンは、PC リスト中で「WLAN」と表示されます。 ※ パソコンを本製品から外して「再読み込み」ボタンをクリックしても、PC リストは更新されません。PCリストを更新する場合は、本製品をリセットするか電源を入れ直してください。
②追加	－	パソコン名と IP アドレスを入力したパソコンを PC リストに追加します。
③パソコン名	corega103	PC リストに追加するパソコンのコンピュータ名(任意の名前)を入力します。 ※ 入力可能な文字は半角英数字、記号で 15 文字までです。
④ IP アドレス	192.168.1.14	PC リストに追加するパソコンの IP アドレスを入力します。

半角英数字、記号… 0～9、a～z、！” ＃ ＄ ％ ＆ ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [￥] ^ _ { ¦ } ˜

項目名	入力例	説明
⑤削除	−	選択したパソコンをPCリストから削除します。
⑥PCデータ一覧	−	PCデータベースの詳細を表示したいときにクリックします。
⑦再読み込み	−	PCリストの表示を更新したいときにクリックします。
⑧詳細設定	−	PCデータの詳細設定を行います（本ページ）。

「PCデータベース（詳細設定）」画面

接続されているパソコンのデータの詳細設定ができます。

1 メニューから「Advanced」ボタン−「PCデータベース」をクリックします。

2 「PCデータベース」画面で「詳細設定」ボタンをクリックします。

項目名		入力例	説明
① PC リスト		ー	接続されているパソコンの一覧を表示します。 ※本製品に無線で接続しているパソコンは、PC リスト中で「WLAN」と表示されます。 ※パソコンを本製品から外して「再読み込み」ボタンをクリックしても、PCリストは更新されません。PCリストを更新する場合は、本製品をリセットするか電源を入れ直してください。
②修正		ー	PCリストから設定を変更したいパソコンを選択し「修正」をクリックするとPC データにパソコンのデータが表示されます。
③削除		ー	PC リストから削除したいパソコンを選択し「削除」をクリックするとPC リストからパソコンが削除されます。
④パソコン名		corega103	パソコンのコンピュータ名と同じ名前を入力します。 ※入力可能な文字は半角英数字、記号で15文字までです。
⑤IPアドレス	自動取得（DHCPクライアント）	ー	パソコン側でIPアドレスを自動取得する設定にしている場合に選択します。IPアドレスは本製品が自動的に割り当てます。
	固定取得（DHCPクライアント）	固定取得 192. 168. 1. 14	パソコン側でIPアドレスを自動取得する設定にしている場合に選択します。IPアドレスは本製品が自動的に割り当てますが、ここで指定したIP アドレスが割り当てられます。 ※ 割り振れるIPアドレスは、「LAN側設定」(P.77)で設定しているIP アドレスの範囲になります。
	固定設定（DHCP 範囲以外）	ー	パソコン側で固定IPアドレスを設定している場合に選択します。
⑥MACアドレス	自動検索	ー	パソコンがLANに接続されている場合に、本製品が自動的にパソコンのMAC アドレスを検索する設定にする場合に選択します。
	MACアドレスは	ー	パソコンのMAC アドレスを直接設定する場合に選択して、MAC アドレスを入力します。
⑦ PC データ追加		ー	PC データを入力したパソコンをPC リストに追加します。
⑧ PC データ更新		ー	選択したパソコンのデータベースを更新します。
⑨データの削除		ー	選択したパソコンのデータベースを削除します。
⑩再読み込み		ー	PC データベースの表示を更新します。
⑪ PC データ一覧		ー	エントリー可能なPC データを一覧表示します。

半角英数字、記号… 0～9、a～z、！” ＃ ＄ ％ ＆ ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

「PC データ一覧」に登録可能なパソコン数は 50 です。

・ルーティング　～ルーティングテーブルを設定する～

LAN 上に他のルーターまたはゲートウェイがある場合は、ルーティングの設定が必要です。通常は、RIP を使用することをお勧めします。

スタティック ルーティングテーブルを使用する際は、ルーティングの機能について理解する必要があります。詳しくは、ネットワーク管理者に確認してください。

1　メニューから「Advanced」ボタン－「ルーティング」をクリックします。

項目名	入力例	説明
①RIP V1 を使用する	－	本製品で RIP を有効にするかどうかを選択します。本製品では RIP V1 のみをサポートしています。 ※工場出荷時は「無効」になっています。 ※LOCAL OFFICEの場合は表示されません(使用できません)。
②保存	－	RIPの設定を保存します（スタティック ルーティングテーブルには変更はありません）。
③スタティックルーティングテーブル	－	設定されているスタティックルーティングテーブルの一覧を表示します。
④接続先ネットワーク	0.0.0.0	スタティックルーティングテーブルを設定する際の接続先ネットワークの IP アドレスを入力します。
⑤サブネットマスク	255.255.255.0	スタティックルーティングテーブルを設定する際の接続先ネットワークのサブネットマスクを入力します。
⑥ゲートウェイ	192.168.1.1	スタティックルーティングテーブルを設定する際の接続先と通信するために使用するゲートウェイのIPアドレスを入力します。

本製品の RIP は、LAN 側のみとなります。

項目名	入力例	説明
⑦メトリック	2	接続先ネットワークにデータが届くまでに通過するルーターの数です。 2～15の間で設定してください。
⑧クリア	－	「詳細内容」欄の入力内容をクリアします。
⑨追加	－	「詳細内容」欄の入力内容をスタティックルーティングテーブルに追加します。
⑩更新	－	「詳細内容」欄の設定内容でスタティックルーティングテーブルを更新します。
⑪削除	－	選択したスタティック ルーティングテーブルを削除します。
⑫レポート	－	設定されているすべてのスタティック ルーティングテーブルのリストを表示します。

登録可能なルーティングテーブル数は 20 です。

・リモート設定　～インターネット上から本製品の設定をする～

本製品をインターネット経由で設定できるようにします。

1　メニューから「Advanced」ボタン－「リモート設定」をクリックします。

項目名	入力例	説明
① PPPoE 設定	アカウント 1	リモート設定を行うアカウント（接続先）を選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
②リモート設定を使用する	―	チェックを付けるとインターネット側（WAN側）から本製品の設定を可能にします。 ※工場出荷時は「無効」になっています。
③ポート番号	8080	インターネット側から本製品にアクセスする際のポート番号を指定します。1 ～ 65534 の範囲でポート番号を入力してください。 ※工場出荷時は「8080」になっています。
④本製品に接続するための IP アドレス	―	インターネット側（WAN 側）から本製品の設定をする際に指定する IP アドレス（プロバイダーによって割り当てられたもの）が表示されます。 ※ 本製品に接続するためのIPアドレスは、本製品の WAN 側 IP アドレスになります。

2　上記項目を設定後、「保存」ボタンをクリックすると設定が反映されます。

・ダイナミック IP アドレスを使用している場合、本製品に接続するための IP アドレスが常に変わってしまいます。接続する前に、本製品のWAN側IPアドレスを確認してください。
・「リモート設定を使用する」を有効に設定した場合、第三者からの不正アクセスやインターネット上への情報の漏洩などが考えられます。リモート設定を使用していないときは、「無効」に設定することをお勧めします。

インターネット側（WAN 側）から接続する際は、下記のように IP アドレスの後ろにポート番号を指定します。

http:// 本製品の WAN 側 IP アドレス:ポート番号

・その他各種設定

1　メニューから「Advanced」ボタン－「その他各種設定」をクリックします。

マルチPPPoE接続時は、以下の画面のように表示されます。

項目名	入力例	説明
①時間指定	－	本製品の内蔵時計を設定します。 ・自動設定:NTPサーバーに接続し、自動的に時刻の設定を行います。 ・手動設定:手動で設定するときに選択します。
② UPnP を有効にする	－	UPnP（Universal Plug and Play）機能によって自動的に LAN に接続された装置を検出し認識します。UPnP機能は、Windows XP、およびWindows Me にてご使用になれます。 ※マルチ PPPoE 接続時は、表示されません。
③ UPnP を使って本製品の設定を変更する	－	チェックを付けると、UPnP 機能を使用して、本製品の設定を変更することができます。チェックを外すと、UPnP 機能を使用した本製品の設定変更はできなくなります。 ※マルチ PPPoE 接続時は、表示されません。

項目名	入力例	説明
④ PPPoE 設定	アカウント 1	UPnP、MTU、バックアップ DNS を設定するアカウント（接続先）を選択します。 ※マルチ PPPoE 接続時のみ表示されます。
⑤UPnP を使用する	ー	チェックを付けると UPnP 機能を使用できます。 ・セッション 1、2 の両方にチェックを入れた場合、セッション 1 のみ有効になります。 ・セッション 2 のみ UPnP 機能を使用したい場合、セッション 1 のアカウントに対してチェックを外します。この場合セッション 2 の接続先設定も必要になります。 ※マルチ PPPoE 接続時のみ表示されます。
⑥WAN の切断機能を有効にする	ー	チェックを付けるとUPnP機能を使用してWAN（インターネット）を切断することができます。 ※工場出荷時は「無効」になっています。
⑦MTU を変更する	1454	MTU の値を変更します。PPPoE 接続の場合のみ、設定できます。通常はリモートサーバーから自動的に設定されます。プロバイダーから指示があったときのみ変更してください。1 ～ 1500 の間で設定してください。フレッツ･ADSL に接続した場合には、自動的に「1454」に設定されます。 ※工場出荷時の設定値は「1454」です。
⑧バックアップ DNS	12. 34. 56. 99	DNS（ドメインネーム サーバー）の IP アドレスを入力します。優先DNSサーバーが利用できない場合に、ここで入力した DNS サーバーが使用されます。プロバイダーに指定された場合に入力してください。指定されない場合は空欄にしてください。

2　上記項目の設定後､｢保存｣ボタンをクリックして､設定を反映します。

マルチ PPPoE 接続時は、項目名の「③UPnP を使用する」以降の設定項目をアカウントごとに設定することができます。

こんなときにはこの設定

ネットワークゲームや音声／ビデオチャットなど、ネットワーク上から各パソコンに直接アクセスする必要がある場合は、本製品の設定を変更する必要があります。この章では、設定方法について説明します。

ネットワークゲームをするには

回線業者によっては、ネットワークゲームに対応していない場合がありますので、ご注意ください。

ゲームサーバーとデータの送受信を行うポートを本製品に設定する必要があります。

● UPnPに対応したネットワークゲームの場合

本製品はUPnPに対応しているので、UPnPに対応したネットワークゲームであれば、自動的に本製品の設定が行われます。
設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1 「その他各種設定」で、「UPnPを使用する」を「有効」にします。

詳しくは、「PART6 設定ユーティリティーを見てみよう」「その他各種設定」（P.111）を参照してください。

- **Windowsにて、ユニバーサルプラグアンドプレイ（UPnP）に関するセキュリティーの脆弱性が発見されています。ご利用になる前に、Windowsの修正プログラムをインストールしてください。**
  詳細な設定方法は、Microsoftにお問い合わせください。
- **UPnPがサポートされているOSは、Windows XP、Windows Meのみです。**

● UPnPに対応していないネットワークゲームの場合

UPnPに対応していないネットワークゲームの場合は、次のいずれかの方法で設定します。

・登録済みのネットワークゲームを使う場合

本製品では、ネットワークゲームをより手軽に使えるように、いくつかのネットワークゲームについてはあらかじめポート設定をしてあります。
設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1 「アドバンスドインターネット」の「登録済アプリケーション」から使いたいネットワークゲームを選択します。

2 「アドバンスドインターネット」の「接続先」でネットワークゲームをするパソコンを選択します。

詳しくは、「PART6 設定ユーティリティーを見てみよう」「アドバンスドインターネット」（P.94）を参照してください。

・登録されていないネットワークゲームを使いたい場合

使用するポート番号、タイプが分かっている場合は、新しく登録できます。
設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1 「アドバンスドインターネット」の「スペシャルアプリケーション」でネットワークゲームが使用するポート番号とタイプを設定します。

詳しくは、「PART6 設定ユーティリティーを見てみよう」「スペシャルアプリケーション」画面」（P.95）を参照してください。

ネットワークゲームが使用するポート番号、タイプ（プロトコルのタイプ）については、各ゲームの製造元にお問い合わせください。

・ネットワークゲームが使用するポート番号が分からない、または毎回変更される場合

DMZ 機能を使います。設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1 「アドバンスドインターネット」の「DMZ」でネットワークゲームするパソコンを選択します。

詳しくは、「PART6 設定ユーティリティーを見てみよう」「アドバンスドインターネット」（P.94）を参照してください。

DMZ機能の対象となっているパソコンは、本製品のファイアーウォール機能が無効になるため、セキュリティーが弱くなります。DMZ機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

音声 / ビデオチャットなどのツールを使うには

ここでは、代表的なソフトとして、NetMeeting 、MSN Messenger、Windows Messenger を利用する場合の設定を説明しています。

本製品では、Microsoft Windows Messenger（Ver.4.7以降）、MSN Messenger（ Ver.5.0以降） およびNetMeetingに対応しています。各アプリケーションの使い方は、ヘルプやホームページを参照してください。

● NetMeeting

設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1 「アドバンスドインターネット」の「登録済アプリケーション」から「H323 （C Usee ME&MS NetMeeting &TGI Phone ）」 を選択します。

2 「アドバンスドインターネット」の「接続先」でNetMeetingを使うパソコンを選択します。詳しくは、「PART6　設定ユーティリティーを見てみよう」「アドバンスドインターネット」（P.91）を参照してください。

この方法で利用できない場合は、DMZ 機能を使います。設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1 「アドバンスドインターネット」の「DMZ」でNetMeetingを使うパソコンを選択します。

詳しくは、「PART6　設定ユーティリティーを見てみよう」「アドバンスドインターネット」（P.94）を参照してください。

DMZ機能の対象となっているパソコンは、本製品のファイアーウォール機能が無効になるため、セキュリティーが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

● Windows Messenger（Ver.4.7 以降）、MSN Messenger（Ver.5.0 以降）

本製品はUPnP に対応しているので、Windows Messenger、MSN Messenger を利用する際は、自動的に本製品の設定が行われます（Windows XP のみ）。
設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1 「その他各種設定」で、「UPnPを使用する」を「有効」にします。

詳しくは、「PART6 設定ユーティリティーを見てみよう」「その他各種設定」（P.111）を参照してください。

・MSN Messenger、NetMeeting は 1 台のパソコンでのみ使用できます。
・対応 OS は、Windows XP Service Pack1（SP1）以降のみです。

外部にサーバーを公開するには

●バーチャルサーバーを使用する

バーチャルサーバー機能を利用して外部にサーバーを公開する設定例です。

1 「Advanced」ボタンをクリックし、表示されたメニューから「バーチャルサーバー」をクリックします。

2 「バーチャルサーバー」の「サーバー」から利用したいサーバーを選択します。

3 「バーチャルサーバー」の「プロパティ」で「有効にする」をチェックし、接続先のパソコンを選択し、「プロトコル」、「入力ポート番号」および「出力ポート番号」を設定します。

詳しくは、「PART6 設定ユーティリティーを見てみよう」「バーチャルサーバー」（P.96）を参照してください。

●ダイナミックDNSを使用してURLでアクセスする

インターネット側からドメインネーム（URL）を使用して、バーチャルサーバーなどに接続することができる設定例です。

1 「Advanced」ボタンをクリックし、表示されたメニューから「ダイナミックDNS」をクリックします。

2 「http://www.dyndns.org」をクリックし、DynDns.orgのWebサイトでユーザー登録を行います。

3 「ダイナミックDNS」の「DDNSデータ」で「ユーザー名」、「パスワード」および「ドメイン名」を入力します。

詳しくは、「PART6 設定ユーティリティーを見てみよう」「ダイナミックDNS（DDNS）」（P.97）を参照してください。

マルチ PPPoE で 2 つの接続先を使い分けるには

●プロバイダーとフレッツ・スクウェアに接続する

通常はプロバイダーに接続し、「flets」のドメイン名が含まれたURLが入力されたとき、フレッツ・スクウェアに自動的に接続されます。
通常のプロバイダーへの接続設定を「アカウント 1」に、フレッツ・スクウェアへの設定を「アカウント 2」に設定する例です。

1 通常のプロバイダーの設定を行います。
「WAN」ボタンをクリックし、「接続タイプ」で「マルチPPPoE」を選択して、「次へ」ボタンをクリックします。

2 「WAN－マルチPPPoE」の「PPPoE設定」で「アカウント1」を選択し、「接続指定」で「セッション1」を選択します。

3 プロバイダーから通知された「ユーザー名」、「パスワード」を入力し、「オプション」、「DNS」の各設定を行います。

4 次にフレッツ・スクウェアの設定を行います。
「PPPoE設定」で「アカウント2」を選択し、「接続指定」で「セッション2」を選択します。

「セッション 2」を選択すると、「接続先設定」が有効になります。

5 「ユーザー名」「パスワード」は、それぞれ以下の表の内容で入力します。「DNS」は「自動取得」を選択します。

	NTT 東日本のエリアのお客様	NTT 西日本のエリアのお客様
ユーザ名	guest@flets	flets@flets
パスワード	guest	flets

（2004 年 6 月現在）

6 「接続先設定」の「ドメイン追加」ボタンをクリックすると、「接続先設定」画面が表示されます。

7 「ドメイン名」に「.flets/」を入力し、「追加」ボタンをクリックすると、リストに登録されます。

8 リストに登録された「.flets/」が反転表示になっていることを確認して「保存」ボタンをクリックし、設定内容を保存します。

9 「閉じる」ボタンをクリックし、マルチPPPoEの設定画面に戻ります。

10 「保存」ボタンをクリックし、設定内容を有効にします。

詳しくは、「PART6 設定ユーティリティーを見てみよう」「マルチPPPoE接続の場合」（P.70）を参照してください。

●プロバイダーとフレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／フレッツ・グループ（NTT西日本）のLAN型払い出しに接続する

通常はプロバイダーに接続し、フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／フレッツ・グループ（NTT西日本）のLAN型払い出しを利用して、それぞれのパソコンのファイル共有などが必要な場合に、フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）/フレッツ・グループ（NTT西日本）に自動的に接続されます。
通常のプロバイダーへの接続設定を「アカウント1」に、フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）/フレッツ・グループ（NTT西日本）への接続設定を「アカウント2」に設定する例です。

1 通常のプロバイダーの設定を行います。前ページの「プロバイダーとフレッツ・スクウェアに接続する」の手順1～3と同じ設定を行います。

2 フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／フレッツ・グループ（NTT西日本）のLAN型払い出しの設定を行います。
「PPPoE設定」で「アカウント2」を選択し、「接続指定」で「セッション2」を選択します。

メモ 「セッション2」を選択すると、「接続先設定」が有効になります。

3 グループ管理者から通知された「ユーザー名」、「パスワード」を入力します。

4 「接続方法」で「トリガー接続」を選択し、「無通信タイマー」を「15」分に設定します。

5 「LAN TYPE」の「有効」にチェックを付けます。「IPアドレス」と「サブネットマスク」が表示されます。

6 グループ管理者から通知されたIPアドレスを「IPアドレス」に、サブネットマスクを「サブネットマスク」にそれぞれ入力します。

7 「DNS」で「自動取得」を選択します。

8 「接続先設定」の「IPアドレス追加」ボタンをクリックすると、「接続先設定」画面が表示されます。

9 「接続先設定」画面の「IPアドレス」にグループ管理者から通知された接続相手のIPアドレスを入力し、「追加」ボタンをクリックすると、リストに登録されます。

手順9で、接続先が複数ある場合はすべての接続先を登録してください。

10 リストに登録された「IPアドレス」が反転表示になっていることを確認して「保存」ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

11 「閉じる」ボタンをクリックし、マルチPPPoEの設定画面に戻ります。

12 「保存」ボタンをクリックし、設定内容を有効にします。

詳しくは、「PART6 設定ユーティリティーを見てみよう」「マルチPPPoE接続の場合」(P.70)を参照してください。

- ファイル共有など、使用するアプリケーションによっては、バーチャルサーバーの設定(P.93)や「WAN-マルチPPPoE」設定画面(P.70)の「接続先設定」にある「NetBios有効」が必要になります。
- フレッツ・グループアクセス(NTT東日本)/フレッツ・グループ(NTT西日本)のLAN型払い出しに接続する場合、必ず「WAN-マルチPPPoE」設定画面(P.70)の「接続先設定」にある「NetBios有効」にチェックを付けてください。
- IPアドレス範囲として複数のIPアドレスが割り当てられていて、それぞれのパソコンに固定IPアドレスを割り当てる場合は、パソコンのネットワーク設定(P.53)が必要です。
- NetBiosを使用してコンピュータを指定する場合は、WINSサーバまたはLMHOSTSが必要です。

●フレッツ・コネクト(NTT東日本)を利用する(ファームウェアバージョン1.10以降)

フレッツ・コネクトを利用するには、マルチPPPoE接続モードで新しいアカウントを設定し、セッション2で使用します。

1 P.117の操作1～2を参照して、通常のプロバイダーへの接続設定を行います。

2 次にフレッツ・コネクトの設定を行います。

「PPPoE設定」で「アカウント3」を選択し、「接続設定」で「セッション2」を選択します。

※「セッション2」を選択すると、「接続先設定」が有効になります。

3 フレッツ・コネクトで使用する「ユーザー名」「パスワード」をそれぞれ入力します。「DNS」は「自動取得」を選択します。

4 「接続先設定」の「IPアドレス追加」ボタンをクリックすると、「接続先設定」画面が表示されます。

5 「接続先設定」画面の「ネットワーク」に「172.0.0.0/8」を入力し、「追加」ボタンをクリックすると、リストに登録されます。

6 リストに登録された「172.0.0.0/8」が反転表示になっていることを確認して「保存」ボタンをクリックして、設定内容を保存します。「閉じる」ボタンをクリックし、マルチPPPoEの設定画面に戻ります。

7 「接続先設定」の「ドメイン追加」ボタンをクリックすると、「接続先設定」画面が表示されます。

8 「接続先設定」画面の「ドメイン名」に「.flets/」を入力して、「追加」ボタンをクリックし、同様に「ドメイン名」に「.connect」を入力して「追加」ボタンをクリックすると、リストに登録されます。

9 リストに登録された「.flets/」「.connect」が反転表示になっていることを確認して「保存」ボタンをクリックして、設定内容を保存します。「閉じる」ボタンをクリックし、PPPoEの設定画面に戻ります。

10 「保存」ボタンをクリックして、設定内容を有効にします。

11 「Advanced」ボタンをクリックし、「その他各種設定」をクリックすると、「その他各種設定」画面が表示されます。

12 「UPnP」の「アプリケーションでWAN IPを選択する」にチェックを付け、「保存」ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

以上で、フレッツ・コネクトを利用するための本商品の設定は終わりです。
ネットワークコミュニケーションソフトを起動して、フレッツ・コネクトをご利用ください。

ダイレクトPPPoE接続でフレッツ・コネクトを使用する場合は、「フレッツ・コネクト」セットアップガイドをご参照ください。

- **フレッツ・コネクトをセッション1に設定した場合は、Windows® MessengerやMSN® Messengerなどのメッセンジャーソフトはご利用になれません。**
- **フレッツ・コネクトの詳細は、フレッツ・コネクトの説明書などをご覧ください。**

●フレッツ・コミュニケーション（NTT西日本）を利用する（ファームウェアバージョン1.10以降）

フレッツ・コミュニケーションを利用するには、マルチPPPoE接続モードで新しいアカウントを設定し、セッション2で使用します。

1 P.117の操作1〜2を参照して、通常のプロバイダーの接続設定を行います。

2 次にフレッツ・コミュニケーションの設定を行います。

「PPPoE設定」で「アカウント3」を選択し、「接続設定」で「セッション2」を選択します。

※「セッション2」を選択すると、「接続先設定」が有効になります。

3 フレッツ・コミュニケーションで使用する「ユーザー名」「パスワード」をそれぞれ入力します。「DNS」は「自動取得」を選択します。

4 「接続先設定」の「IPアドレス追加」ボタンをクリックすると、「接続先設定」画面が表示されます。

5 「接続先設定」画面の「ネットワーク」に「219.111.224.0/20」を入力し、「追加」ボタンをクリックすると、リストに登録されます。

6 リストに登録された「219.111.224.0/20」が反転表示になっていることを確認して「保存」ボタンをクリックして、設定内容を保存します。「閉じる」ボタンををクリックし、マルチPPPoEの設定画面に戻ります。

7 「接続先設定」の「ドメイン追加」ボタンをクリックすると、「接続先設定」画面が表示されます。

8 「接続先設定」画面で「ドメイン名」に「.flets-c.jp」を入力して「追加」ボタンをクリックすると、リストに登録されます。

9 リストに登録された「.flets-c.jp」が反転表示されていることを確認して「保存」ボタンをクリックして、設定内容を保存します。「閉じる」ボタンをクリックし、マルチPPPoEの設定画面に戻ります。

10 「保存」ボタンをクリックし、設定内容を有効にします。

11 「Advanced」ボタンをクリックし、「その他各種設定」をクリックすると、「その他各種設定」画面が表示されます。

12 「UPnP」の「WAN側IPのセッションを選択する」にチェックを付け、セッション2を選択し、「保存」ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

以上で、フレッツ・コミュニケーションを利用するための本商品の設定は終了です。
ネットワークコミュニケーションソフトを起動して、フレッツ・コミュニケーションをご利用ください。

- UPnPを使用するセッションをフレッツ・コミュニケーションで接続するため、Windows® Messenger や MSN® Messenger などのメッセンジャーソフトはご利用になれません。
- ダイレクト PPPoE 接続では、フレッツ・コミュニケーションはご利用になれません。（2004 年 6 月末現在）
- フレッツ・コミュニケーションの詳細は、フレッツ・コミュニケーションの説明書などをご覧ください。

複数固定IPサービスを利用するには（Unnumbered利用）

各プロバイダーが提供する複数固定IPアドレスサービスを利用することにより、プロバイダーから割り当てられた複数のグローバル固定IPアドレスを本製品および本製品に接続されたパソコンにそれぞれ設定して、サーバー公開などが可能になります。

1 「WAN」ボタンをクリックし、「接続タイプ」で「PPPoE/Unnumbered IP」を選択して、「次へ」ボタンをクリックします。

2 「ログイン」で「PPPoE接続名」、「ユーザー名」、「パスワード」を、「オプション」で「接続方法」、「無通信タイマー」を設定します。

3 「IPアドレス」で「Unnumbered IP」を選択し、プロバイダーから指定された「IPアドレス」、「サブネットマスク」を入力します。「タイプ」で「Unnumbered IP」を選択します。

4 「DNS」を設定します。

詳しくは、「PART6 設定ユーティリティーを見てみよう」「Unnumbered IP機能によるPPPoE接続の場合」（P.68）を参照してください。

Unnumberedを利用する場合は、パソコン側に固定IPアドレスを設定する必要があります。詳しくは、「PART5 トラブルや疑問があったら」「⑦パソコンのネットワークは正しく設定しましたか？」（P.50）を参照してください。

MAC アドレスについて

ご契約されているプロバイダーやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、CATV/ADSL モデムに直接接続するネットワーク機器（本製品も含むパソコンなど）のMAC アドレスをプロバイダーに対して事前申請してください。
本製品の WAN 側の MAC アドレスは本体底面に記入されています。

マルチ PPPoE 機能での制限事項

マルチPPPoE接続の設定については、「マルチPPPoE接続の場合」(P.70)を参照してください。

	マルチPPPoE		PPPoE
	セッション1	セッション2	
WAN側設定			
マルチPPPoE	○	○	×
Unnumbered	×	×	○
Unnumbered + Praivate	×	×	○
接続方法	○	○	○
無通信タイマー	○	○	○
接続先設定>IPアドレス	×	○	×
接続先設定>ドメイン	×	○	×
接続先設定>ポート	×	○	×
WAN側設定			
BIG UDP	○	○	×
接続先設定（NetBIOS有効）*1	×	○	×
フレッツ・グループアクセス／フレッツ・グループ			
端末型払い出し	×	○※6	×
LAN型払い出し（LAN TYPE）	×	○	×
ステータス			
ログ機能	○	○	○
E-Mail機能	○	○	○
Messenger系			
Windows® Messenger4.7	○	×	○
MSN® Messenger4.6	○	×	○
MSN® Messenger4.7以降*2	○	×	○
Quick Time Ver.6.0	○	○	○
アドバンスドインターネット			
登録済アプリケーション	○	×	○
スペシャルアプリケーション	○	×	○
DMZ	○	○	○
バーチャルサーバー			
バーチャルサーバー	○	○	○
ダイナミックDNS			
ダイナミックDNS	○	○	○
アクセス制限			
アクセス制限	○	○	○
スケジュール設定	○	○	○
セキュリティー			
DoS	○	○	○
SPI*3	○	○	○
URLフィルター	○	○	○
ICMP	○	○	○
VPN*4	○	○	○
ログ機能			
DoS攻撃	○	○	○
インターネット接続	○	○	○
アクセス制限	○	○	○
PCデータベース			
PCデータベース	○	○	○
ルーティング			
RIP	○	○	○
スタティックルーティング	○	○	○
リモート設定			
リモート接続	○	○	○
その他の機能			
UPnP*5	○※7	○※7	○
MTU手動設定	○	○	○

※ 1 : Windows でファイル共有をする場合にチェックを入れます。

※ 2 : Windows XP のみ対応しています。

※ 3 : セッション 1 およびセッション 2 において BIG UDP を有効にした場合は、SPI 機能は OFF になります。

※ 4 : IPSec は、IP エンドポントを指定する通信のみ可能です。

※ 5 : ただし、WAN 側切断処理（WAN の切断機能を有効にする）は、Windows XP がゲートウェイアイコンを一つしか持てないためセッション 1 のみ有効です。

※ 6 : DMZ の設定が必要です。

※ 7 : UPnP はセッション 1、2 のいずれかの排他利用になります。

推奨ブラウザについて

OS	推奨ブラウザ
Windows XP	Microsoft Internet Explorer 6.0 SP1 以降
Windows 2000	Microsoft Internet Explorer 6.0 SP1 以降
Windows Me	Microsoft Internet Explorer 5.5
Windows 98	Microsoft Internet Explorer 5.5
Mac OS X	Safari 1.0 以降

おことわり

・本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
・改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
・本製品の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

2003 年 11 月　Rev.A　初版
2005 年　3 月　Rev.C　第三版